

授業科目名： 器械運動（体づくり 運動を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 黒崎 辰馬
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>体づくり運動で取り扱われる運動例や器械運動の各種目に関して、保健体育科教員として必要とされる基礎的な知識や技能を、実践を通して身に付ける。また、各運動の特性について十分に理解した上で、指導実践として応用できるようになることをねらいとする。</p> <p>体づくり運動のねらいや特性などを、実践を通じて理解し、説明できるようになる。</p> <p>器械運動の各種目の特性を踏まえ、技の技術的なポイントを理解し、自らの体を用いて実践できるようになる。</p> <p>器械運動の各種目の技の習得について理論的な説明ができ、安全に配慮し指導することができる。</p>			
授業の概要			
<p>体づくり運動と器械運動を行うこととする。体づくり運動では、物を使う動き、人と合わせる動き、仲間と交流する動き、器械運動では、マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動といった内容を取り扱う。各運動種目の中で、体づくり運動や器械運動の特性や意義について考えたり、自らの体を用いて技や動きを習得することの楽しさや喜びを味わったりできるように、教師と学生間や学生同士のコミュニケーションを効果的に用いるなどの指導上の工夫を行う。また、学生による指導実践を行い、各運動種目の深い理解を促すよう努めることとする。</p>			
授業計画			
第1回：技の習得のための基本的な動きづくりの運動について			
第2回：体づくり運動 「物を扱って動く」			
物を扱った体ほぐしの運動と体力を高める運動の基礎を学び、実践する。			
第3回：体づくり運動 「人に合わせて動く」			
2人以上で行う体ほぐしの運動と体力を高める運動の基礎を学び、実践する。			
第4回：体づくり運動 「仲間との交流を主題とした運動」			
仲間と協力し、課題に挑戦することによって運動をすることの楽しさを知る。			
第5回：マット運動 「接転技群」			
前転がりや後ろ転がりなど、背中をマットに接して回転する技を中心に回転系の基本を学ぶ。			
。			
第6回：マット運動 「ほん転技群」			

<p>前方倒立回転や側方倒立回転、後方倒立回転など手や足の支えで回転する技を中心に回転系の基本を学ぶ。</p> <p>第7回：マット運動 「連続技」</p> <p>バランスをとりながら静止する巧技系の技を学ぶとともに、接転技群やほん転技群の組み合わせを学び、実践する。</p> <p>第8回：鉄棒運動 「逆上がり、けあがり」</p> <p>鉄棒運動の基本である支持系・懸垂系の基礎を学び、実践する。</p> <p>第9回：鉄棒運動 「前方支持回転、後方支持回転」</p> <p>支持系の基本技を習得する。</p> <p>第10回：跳び箱運動 「切り返し系の技」</p> <p>跳び箱運動における切り返し系の技の基礎を学び、実践する。</p> <p>第11回：跳び箱運動 （回転系の技）</p> <p>跳び箱運動における回転系の技の基礎を学び、実践する。</p> <p>第12回：指導実践 「実技テストの練習」</p> <p>各運動の安全な指導法について学ぶ。実技テストの説明および練習を行う。</p> <p>第13回：指導実践 「実技テストの練習」</p> <p>自身および他者の技の観察を行い、技の習得へ導くための指導法を考える。</p> <p>第14回：指導実践 「実技テスト」</p> <p>評価の仕方について学びマット運動、鉄棒運動、跳び箱運動の実技テストを行う。</p> <p>第15回：「まとめ」マット運動、鉄棒運動、跳び箱運動の実技テストを行う。</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 東山書房、2018年</p> <p>文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 東山書房、2019年</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>提出物の記載内容40%、実技テスト30%、指導実践30%</p>

授業科目名： 陸上競技	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高尾 憲司
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1．陸上競技の各種目を行う上での技術的なポイントを理解し実際に示範することができる。</p> <p>2．各種目の競技特性について科学的かつ理論的な説明ができ、かつ安全に配慮してそれぞれの種目を実施することができる。</p>			
授業の概要			
<p>各種目の特性についてバイオメカニクス的（運動学的および生理学的）観点から理解する。また、陸上競技で取り扱われる各種目に関して、保健体育科教員として必要とされる基礎的技能、指導法および審判法について、実践を通して身につける。</p>			
授業計画			
<p>第1回：「ガイダンス」陸上競技の歴史について。</p> <p>第2回：「陸上7種競技（女子種目）について」女子7種競技の特性と必要な能力について理解する。</p> <p>第3回：「短距離走」疾走動作、生理学的な理論、およびスタート方法について理解する。</p> <p>第4回：「短距離走」短距離走の計測法を理解し、60m走タイムと7秒間走距離を測定する。</p> <p>第5回：「中距離走」生理学的な理論と安全管理を理解し、練習方法を理解する。</p> <p>第6回：「中距離走」「リレー競技」中距離走タイムを測定しリレー競技の練習方法を理解する。</p> <p>第7回：「ハードル走」基本動作と安全管理を理解し、技術練習法を学修する。</p> <p>第8回：「ハードル走」ハードルの技術練習を実践し、指導法を理解する。</p> <p>第9回：「ハードル走」ハードルの技術練習を実践し、タイムを測定する。</p> <p>第10回：「走幅跳」基本動作と安全管理、技術練習法を理解する。</p> <p>第11回：「砲丸投」基本動作と安全管理、技術練習法を理解する。</p> <p>第12回：「砲丸投」審判法を理解し、技術練習実施から記録を測定する。</p> <p>第13回：「走高跳」基本動作と安全管理、技術練習法を理解する。</p> <p>第14回：「走高跳」審判法を理解し、技術練習実施から記録を測定する。</p> <p>第15回：「陸上競技のまとめと再計測」記録から自身の陸上競技における特性を理解する。</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
テキスト			

なし
参考書・参考資料等 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 東山書房、2018年 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 東山書房、2019年
学生に対する評価 ・授業時の練習および記録測定40%（陸上競技の6種目を測定について授業ごとに課題を設定する） ・自己の振り返りコメント30%（授業で自分に対する振り返り） ・最終レポート課題30%

授業科目名： 水泳・水中運動	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 青葉 貴明
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1．各種目を指導する上での技術的要点を理解し、実際に示範することができる。</p> <p>2．水泳プールを利用する上で必要となる構造の理解と安全上の配慮について理解すること。</p> <p>3．水中運動の特性と効果を理解し、実践と指導ができるようにすること。</p>			
授業の概要			
<p>保健体育科教員および運動指導者（健康運動実践指導者）として必要とされる「水泳」・「水中運動」等の水泳プールを利用した運動の基礎的な理論とその練習方法を理解し、実践を通じて自らの泳力・運動技能の向上を目指す。その過程において、浮き身や基本姿勢、呼吸法、運動強度の評価、初心者指導法、子供における泳力の発達、安全管理などについて学び、実践的な指導能力と自己保全能力を身につける。また水中運動の特性と効果を理解し、水中運動の実践と指導ができるようにする。</p>			
授業計画			
第1回：「ガイダンス」			
第2回：「水泳の特性と基本姿勢」			
水泳の特性と水泳における基本姿勢について理論的に学習する。			
第3回：「水泳の基礎技術1」			
初心者指導法、クロール・背泳ぎの特性と技術について学習し、練習方法を探る。			
第4回：「水泳の基本技術2」			
中上級者指導法、平泳ぎ・バタフライの特性と技術について学習し、練習方法を探る。			
第5回：「水上安全管理と着衣泳」			
プールや野外での水の事故、予防策、着衣泳の方法について学習する。			
第6回：「水中運動の特性と効果」			
水中運動の特性と効果、特に生活習慣病の改善と予防の観点から理論的に学習する。			
第7回：「水中ウォーキング（実践と指導）」			
前歩き、後ろ歩き、横歩き、回旋歩き、ジャンピング等を行い、運動のポイントについて解説して実践する。			
第8回：「水中レジスタンス運動（実践と指導）」			
チェストフライ、バックプッシュダウン、レッグエクステンション、レッグカール、ヒップ			

<p>アダクション及び水中ストレッチング等を行い、運動のポイントについて解説して実践する。</p> <p>第9回：水慣れと基本姿勢(着衣泳を含む) 水あそび、けのび、キックの練習を中心に行い、泳力チェックを行い自分の泳力について評価する。また、着衣泳での水慣れや基本姿勢について学習する。</p> <p>第10回：「クロール(ストロークとコンビネーション)」 クロールのキック、ストローク、呼吸、コンビネーションの技術練習を行う。</p> <p>第11回：「背泳ぎ(背浮きとコンビネーション)」 背浮き、背泳ぎのキック、ストローク、コンビネーションの技術練習を行う。</p> <p>第12回：「平泳ぎ(キック)」 平泳ぎのキックについて技術練習を行う。</p> <p>第13回：「平泳ぎ(ストロークとコンビネーション)」 平泳ぎのストローク、コンビネーションの技術練習を行う。</p> <p>第14回：「実技のまとめと確認テスト」 実技で行った泳法について確認テストを行う。</p> <p>第15回：「まとめ」 実技を通して行った、水中運動及び水泳の泳法について振り返りとまとめの課題を行う。</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
<p>テキスト</p> <p>なし。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>水泳指導教本・第3版( (財)日本水泳連盟、大修館書店)</p> <p>アクアフィットネス・アクアダンスインストラクター教本( (財)日本スイミングクラブ協会、大修館書店) 必要に応じて資料を配布する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>実技テスト40%及び課題レポート60%で評価する。</p>

授業科目名： サッカー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 阿部 征大
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <p>サッカーにおいて必要な基本的要素（個人技術・個人戦術・グループ戦術）を理解、習得し、楽しく競技するための能力を向上する。また、競技特性および規則を理解するとともに、指導の際にデモンストレーションし、分かりやすく具体性をもって指導できる能力を身につける。</p>			
<b>授業の概要</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 指導する立場として、球技としてのサッカーの特性を理解する。</li> <li>2. 仲間とコミュニケーションをはかり集団技能を発揮する。</li> <li>3. 集団としてのサッカーの戦術を理解し、基本的なトレーニングを構築する方法を実践的に理解する。</li> </ol>			
<b>授業計画</b> <p>第1回：「オリエンテーション（サッカーの競技特性）」 授業の目標と進め方、成績評価の方法と履修上の諸注について説明。サッカーの競技特性について学ぶ。</p> <p>第2回：「サッカーに求められるコーディネーション能力」 ボールを自由に扱うための身体のコントロールについて学ぶ。</p> <p>第3回：「ボールコントロール技術」 ボールを自由に扱うためのボールフィーリングの技術を獲得する。</p> <p>第4回：「ドリブル、パスの技術」 ボールを運ぶ、止める、蹴る個人技術を獲得する。</p> <p>第5回：「1対1の突破と守備」 ボールをキープあるいは駆け引きしながら相手をかかわす技術とボールを個で奪う技術を獲得する。</p> <p>第6回：「グループ戦術（攻撃）」 複数で相手と駆け引きしながら突破するグループ戦術について学ぶ。</p> <p>第7回：「グループ戦術（守備）」 複数で相手からボールを奪う守備戦術について学ぶ。</p> <p>第8回：「数的優位を作って攻撃・守備」</p>			

<p>優位性（人の関わり）を持つての攻防について学ぶ。</p> <p>第9回：「ポゼッショントレーニング」</p> <p>グループでのボール保持するボールキープ率を高める戦術について学ぶ。</p> <p>第10回：「シュートトレーニング」</p> <p>強く正確なシュートを打つための技術を獲得する。また、クロスボールからヘディングによるシュートの技術も獲得する。</p> <p>第11回：「スモールサイドゲーム（攻撃の意識）」</p> <p>スモールサイドゲームを通じて攻撃の戦術を学ぶ。</p> <p>第12回：「スモールサイドゲーム（守備の意識）」</p> <p>スモールサイドゲームを通じて守備の戦術を学ぶ。</p> <p>第13回：「ゲーム形式（幅を使った展開）」</p> <p>ピッチの幅を活かした攻撃の重要性を学ぶ。</p> <p>第14回：「ゲーム形式（縦への意識とサポート）」</p> <p>ゴールへ向かう縦の攻撃の意識の重要性を学ぶ。</p> <p>第15回：「テーマに基づいた指導の実践」</p> <p>サッカーの競技特性を考慮し、テーマに応じた練習を設定し指導実践する。</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
<p>テキスト</p> <p>なし。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中学校体育サッカー指導の教科書（公益財団法人日本サッカー協会、東洋館出版社）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>実技評価（指導実践力と実技能力）60%、トレーニング指導案（レポート）40%</p>

授業科目名： バドミントン	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 久野 峻幸
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バドミントンの実技を通じて、指導の際に必要とされる基礎的技術、指導法等を身につけると同時に、誰とでも楽しめるようなコミュニケーションスキルの獲得を図る。</li> <li>・ 指導する上での技術的要点を理解し、実際に示範することができる。</li> <li>・ バドミントン競技の面白さを技術面およびゲーム面から習得していく。</li> <li>・ ルールや安全なゲームの実施を理解する。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <p>基本となるストローク技術を習得し、バドミントンの概要を学びます。また、保健体育科教員や運動指導者として必要とされる基礎的な指導法、戦術やルールについて実践を通して身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. バドミントンに必要とされる技術的・体力的要素を理解する。</li> <li>2. バドミントンのゲームの特性を知り、ゲームを楽しむための戦術を理解する。</li> <li>3. 効果的にそれらを身に付けるための指導法について学ぶ。</li> </ol>			
<b>授業計画</b> <p>第1回：「オリエンテーション/基礎練習の行い方」 授業の進め方と評価の説明、ルール・競技特性について理解する。</p> <p>第2回：「ラケットの使い方」 グリップの握り方と使い分けについて理解し、実践する。</p> <p>第3回：「基本動作（ヘアピンとロビング）」 ヘアピンとロビングの技術ポイントおよび実技試験の評価説明を行ない、実践する。</p> <p>第4回：「基本動作（ハイクリアとドロップ）」 ハイクリアとドロップの技術ポイントおよび実技試験の評価説明を行ない、実践する。</p> <p>第5回：「基本動作（スマッシュとカット）」 スマッシュとカットの技術ポイントを説明し、実践する。</p> <p>第6回：「基本動作（サービス）」 サービスの技術ポイントおよびルールを説明し、実践する。</p> <p>第7回：「ゲーム練習（3対3での前衛と後衛への打ち分け）」 3対3での前衛と後衛への打ち分けを練習する。</p>			

第8回：「基本フットワーク（前後左右への動き方）」  
コート内での前後左右への動き方を理解する。

第9回：「ゲーム練習（1対1での半面での打ち合い）」  
1対1での縦半面コートでの打ち合いを実践する。

第10回：「ダブルスの基礎（ルールとポジショニング）」  
ダブルスのルールとポジショニングについて理解する。

第11回：「ゲーム練習（2対2での前後と左右のポジショニング）」  
2対2での前後・左右のポジショニングについて理解する。

第12回：「ゲーム練習（ダブルスとシングルス）」  
ダブルス・シングルのルールを理解し、実践する。

第13回：「チーム対抗戦（ダブルスリーグ戦）」  
ダブルスゲームを実践し、ダブルスゲームへの理解を深める。

第14回：「チーム対抗戦（シングルスリーグ戦）と実技試験」  
シングルスゲームを実践し、理解する。またヘアピンとロブの実技試験を行う。

第15回：「チーム対抗戦（シングルスリーグ戦）と実技試験、まとめ」  
シングルスゲームを実践し、理解する。またハイクリアとドロップの実技試験を行う。

定期試験は実施しない。

テキスト

なし。

参考書・参考資料等

文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 東山書房、2018年  
文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 東山書房、2019年

学生に対する評価

- ・実技試験40%（授業内で実技試験を実施）・授業レポート30%
- ・練習相手への指導コメント30%（各授業でペアを組んだ学生に対するコメントと自己の振り返り）

授業科目名： 柔道	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 武田 光平
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>各自の能力に応じ、基本技術を習得し、自由練習・試合（簡易）等ができるように努める。合わせて、審判法や適正な柔道指導方法を学ぶ。</p> <p>1）柔道の教育的価値を踏まえながら、心身の健康を保持・増進し、安全で楽しく行うことができる柔道の動きや攻防の特性を理解し、実践することができる。</p> <p>2）安全で適切な柔道指導法と柔道特有の技術を理解し、他者に教示することができる。</p> <p>3）自らが怪我をしない、また、他者に怪我をさせない身体の使い方を理解し、実践することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>柔道は、日本の文化財としての特徴をもちつつ、世界のスポーツとしての特色も持っている。さらに、教育として、また、機会文明による人間本性の退化を防ぐ意味でも重要視されている。本授業では、これらの柔道の特性を追及しつつ、心身の健康を維持増進し、気軽に安全で楽しく行える柔道を目指しながら授業を進める。</p> <p>将来、体育教員を志望する学生に対しては、適正な柔道指導法を教授しながら、技術の体得を目指す。また、それ以外の受講者に対しても、技術を学びながら、体力の向上を目指し、精神的要素（充実感、満足感等）も体感できるような内容とする。</p> <p>各学生の能力や体力、また、それぞれの目的に応じた指導を行う。男女ともに、経験の有無を問わず、誰でも受講されることを希望する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション」基本動作</p> <p>第2回：「柔道のさまざまな動き」姿勢と組み方・進退動作・受け身。</p> <p>第3回：「投げ技の対人動作」体さばきと崩し・膝車・支え釣り込み足。</p> <p>第4回：「投げ技の対人動作」体さばきと崩し・体落とし。</p> <p>第5回：「投げ技の対人動作」体さばきと崩し・大外刈。</p> <p>第6回：「投げ技の対人動作」体さばきと崩し・小内刈・大内刈。</p> <p>第7回：「投げ技の対人動作」体さばきと崩し・払い腰。</p> <p>第8回：「投げ技の対人動作」連絡技・連続技。</p> <p>第9回：「投げ技の対人動作」さまざまな連絡技。</p>			

第10回：「固め技の対人技能」袈裟固め・横四方固め。  
第11回：「固め技の対人技能」肩固め・縦四方固め。  
第12回：「固め技の対人技能」絞め技・関節技についての説明，さまざまな種類の固め技。  
第13回：「修得した対人技能の復習」投げ技から固め技への連絡。  
第14回：「試合練習」審判法の理解。  
第15回：実技試験とまとめ/総括  
定期試験は実施しない。

テキスト

なし。

参考書・参考資料等

文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 東山書房、2018年  
文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 東山書房、2019年

学生に対する評価

授業課題（60%）、技能試験（40%）により評価する。

授業科目名： ダンス	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山口 晏奈
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1．ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、創る、踊る、観るという総合的な視点でダンスの技能を身につける。</p> <p>2．共同作業を通して、互いの表現を認め合い、自己表現力を高め、積極的に取り組む姿勢を身につける。</p> <p>3．指導者に必要なダンスの知識と技術、および、指導法を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>課題解決能力、他者とのコミュニケーション、専門的な知識の理解を促進し、実際の教育現場で必要とされるスキルを養う授業である。具体的には、ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、思いきり身体を動かすこと、動きを創作する楽しさ、表現を追求する面白さ、人に伝える喜びなどダンスの醍醐味を身体で経験する。また、ダンスの指導法を学び、教育現場等での指導力を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション」ダンスとは何か？</p> <p>第2回：「学校体育におけるダンス授業について（1）」創作ダンスについて。</p> <p>第3回：「学校体育におけるダンス授業について（2）」フォークダンスについて。</p> <p>第4回：「学校体育におけるダンス授業について（3）」現代的なリズムのダンスについて。</p> <p>第5回：「学習指導要領のまとめ」体づくり運動／即興的な表現。</p> <p>第6回：「動きの探求」日常的な動作をもとに動きを工夫する／変化をつける。</p> <p>第7回：「動きの探求」ひとの流れ動き。</p> <p>第8回：「動きの探求」身近な物をつかった表現。</p> <p>第9回：「創作ダンスの指導法 / グループ創作」 多様なテーマからイメージにあう効果的な動きの探求。</p> <p>第10回：「創作ダンスの指導法 / グループ創作」 動きの変化・発展・空間構成、ひとの流れ動き、ひとまとまりの表現を見つける。</p> <p>第11回：「実技試験」グループによる創作ダンスの発表。</p> <p>第12回：「ダンスと健康について」エアロビックダンスの基本ステップ。</p> <p>第13回：「ダンスと健康について」エアロビックダンスの指導。</p>			

<p>第14回：「リズムダンスの指導法」学習指導案の作成。</p> <p>第15回：映像鑑賞とダンスの評価方法/まとめ</p> <p>第15回：実技試験とまとめ/総括</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
<p>テキスト</p> <p>なし。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 東山書房、2018年</p> <p>文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 東山書房、2019年</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>講義ノートの提出50% 創作ダンス作品発表20% 学習指導案20% 課題ダンスによる実技テスト10%により評価する。</p>

授業科目名： 体育・スポーツ原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部 征大
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>1．体育・スポーツとは何であるかを考える上で必要となる原理・原則についての知識を深めて、スポーツそのものが持つ価値や社会に果たす役割等について、自ら考え説明することができる。</p> <p>2．学校体育の役割やその理念の変遷について説明できる。</p> <p>3．体育が有する教育的効果について理解し、体育教員に必要とされる取り組みや心構えを把握する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校体育の理念の変遷や役割、体育とスポーツとの違い、人間形成、身体形成、技術指導などの側面から体育のあるべき姿、体育教員として目指すべき姿について学び、体育やスポーツに関わる原理・原則を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「ガイダンス」（目標、概要、評価等について説明）</p> <p>第2回：体育・スポーツ原論を学ぶ意義について考える 体育・スポーツ原理とは何か、なぜ必要なのかを学ぶ。</p> <p>第3回：体育・スポーツの現在について考える 体育・スポーツの意義や政策について学ぶ。</p> <p>第4回：体育理念の変遷体育とスポーツの理念について理解し、その変遷について学ぶ。</p> <p>第5回：体育とスポーツの違い体育とスポーツの違いについて理解し、青少年の体力の現状について学ぶ。</p> <p>第6回：体育と身体形成身体形成に必要なことや理論について学ぶ。</p> <p>第7回：体育にとっての競争の意味スポーツ競争の本質を理解し、正しいスポーツ観・スポーツ思想について学ぶ。</p> <p>第8回：技術指導からみた体育道具・装備等目的に応じ組み合わされたシステムという視点から学ぶ。</p> <p>第9回：体育と指導者：体育教師とコーチの違い教員とスポーツ指導者について学ぶ。</p> <p>第10回：現代スポーツの周辺：スポーツとルールプレイの概念規定や本質について学ぶ。</p>			

<p>第11回：現代スポーツの周辺 : スポーツとグローバル化スポーツに関する法律を学び変遷を理解する。</p> <p>第12回：現代スポーツの周辺 : スポーツと法・行政スポーツと法・行政の関わりを理解する。</p> <p>第13回：現代スポーツの周辺 : スポーツとビジネススポーツとビジネスの関係性をオリンピックから学ぶ。</p> <p>第14回：現代スポーツの周辺 : スポーツとオリンピック・パラリンピックについての変遷を学ぶ。</p> <p>第15回：現代スポーツの周辺 : スポーツと福祉スポーツと福祉についての役割を学ぶ。</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
<p>テキスト</p> <p>なし。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>教養としての体育原理」(友添秀則・岡出美則著、大修館書店)</p> <p>適宜、資料を配布する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提出物：30% (各講義にて与えられたミニレポート)</li> <li>・課題レポート：70% (課題に対して自身の考え(立場)をその根拠とともに説明できる)</li> </ul>

授業科目名： スポーツ心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 東山 明子
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 運動・スポーツ活動におけるパフォーマンスの発揮に密接に関係する心理学の理解を目標とする。また、学んだ技術や知識を日々の生活におけるさまざまなパフォーマンスの発揮に応用できるようにする。			
授業の概要 スポーツ心理学の専門的な知識を理解し、日常生活や子供の心の発育、発達において応用できるようにする。健康づくり実践者として必要となるさまざまな心理学的理論を理解する。 ・スポーツ心理学の専門的な知識を理解し学校生活や日常生活において応用できるようにする。 。 ・健康づくり実践者として必要となるさまざまな心理学的理論を理解する。			
授業計画 第1回：「ガイダンス」（スポーツ心理学の定義について学ぶ） 第2回：「スポーツと心理的スキル」（スポーツ選手の心理的スキル心理的スキルについて） 第3回：「スポーツと心理的スキル」（メンタルトレーニング） 第4回：「スポーツ実施の心理的メカニズム」（目標設定について学び、自らの目標を設定する） 第5回：「スポーツ実施の心理的メカニズム」（運動を継続するための動機づけについて） 第6回：「アスリートの競技心理」（メンタルヘルス） 第7回：「アスリートの競技心理」（スポーツカウンセリング） 第8回：「グループワーク、前半のまとめ」中間テスト1-7回の講義を振り返り復習を行う。 第9回：「集団におけるスポーツ」 第10回：「スポーツとさまざまなストレス」 第11回：「スポーツ実施に伴う心理的変容」（行動変容の理論環境や思考と行動の関係性） 第12回：「スポーツ実施に伴う心理的変容」（健康スポーツにおける行動変容） 第13回：「スポーツと運動学習」（運動学習、運動制御運動学習） 第14回：「スポーツと運動学習」（効果的な学習指導） 第15回：「後半のまとめ」9-14回の講義を振り返り復習を行う。 定期試験は実施しない。			

テキスト

なし。

参考書・参考資料等

中込四郎・伊藤豊彦・山本裕二（編） よくわかるスポーツ心理学（やわらかアカデミズム  
・ わかる シリーズ） 2012年 ミネルヴァ書房

学生に対する評価

提出物40%、小テスト60%

授業科目名： スポーツ経営学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部 征大
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や地域における体育・スポーツ振興に必要な経営学の基礎理論を理解する。</li> <li>・学校、地域等の各領域で展開される生涯スポーツの推進・振興施策を理解するとともに、それを体育・スポーツ経営学的視点から捉え検討することができる。</li> <li>・体育・スポーツ経営の具体例を示し、その経営の仕組みや特徴を説明することができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>生涯スポーツを推進するための効果的・効率的な経営過程論について理解を深めるべく、学校、地域、民間・公共スポーツ施設といった様々な領域における体育・スポーツ事業の構成方法や演出方法を学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「ガイダンス」（体育・スポーツ経営学の視点とは）</p> <p>第2回：「文化としてのスポーツ」</p> <p>第3回：「体育・スポーツ経営とは」</p> <p>第4回：「スポーツ生活と運動生活」</p> <p>第5回：「体育・スポーツ事業と経営資源」</p> <p>第6回：「体育・スポーツ事業の進め方」</p> <p>第7回：「体育・スポーツ経営体」</p> <p>第8回：「よい体育・スポーツ経営の条件」</p> <p>第9回：「体育・スポーツ経営の現代的課題」（体育者の分類とその意義）</p> <p>第10回：「体育・スポーツ経営の現代的課題」（地域における体育・スポーツの行政・政策学校体育・地域スポーツと行政について）</p> <p>第11回：「体育・スポーツ経営の現代的課題」（「する・みる・支えるスポーツ」の経営）</p> <p>第12回：「体育・スポーツ経営の現代的課題」（スポーツ産業の実際）</p> <p>第13回：「体育・スポーツ経営の現代的課題」（スポーツボランティア）</p> <p>第14回：「体育・スポーツ経営の現代的課題」（スポーツ教室の企画・運営）</p> <p>第15回：「まとめ」（本講義までの復習と整理）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			

テキスト

なし。

参考書・参考資料等

『テキスト体育・スポーツ経営学』（柳沢ほか、2017年、大修館書店）

『体育・スポーツ経営学講義』（八代・中村編著、2002年、大修館書店）

学生に対する評価

・提出物：30%（各講義にて与えられたミニレポート）

・課題レポート：70%（課題に対して自身の考え（立場）をその根拠とともに説明できる）

授業科目名： スポーツ社会学（ス ポーツ史を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 阿部 征大、和田 浩一 担当形態： オムニバス
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運 動学（運動方法学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古代から近代までの体育・スポーツの理念や取り組みの変遷について理解する。</li> <li>・ 現代の体育・スポーツに関する基本的な事象について知り、その問題点を理解する。</li> <li>・ 当該時代（社会）のスポーツ状況について、自身の認識を的確に説明（批判）できる。</li> <li>・ 今日のスポーツを取り巻く状況を分析し、その原因がどこにあるのかを積極的に検討することができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>これまでの体育・スポーツの歴史を概観した後、現代社会における体育・スポーツに関わる様々な事象や社会環境を取り上げ、そこでの問題点や課題について考察し、これからの体育・スポーツが目指すべき姿を模索していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「ガイダンス」（スポーツ社会学（スポーツ史）の視点とは）（担当：阿部征大、和田浩一）</p> <p>第2回：「古代の体育・スポーツ」（担当：和田浩一）</p> <p>第3回：「中世の体育・スポーツ」（担当：和田浩一）</p> <p>第4回：「日本近世の体育・スポーツ」（担当：和田浩一）</p> <p>第5回：「国民国家の形成と近代体育の成立」（担当：和田浩一）</p> <p>第6回：「近代スポーツの誕生とオリンピック・ムーブメント」（担当：和田浩一）</p> <p>第7回：「近代体育・スポーツの展開」（担当：和田浩一）</p> <p>第8回：「日本におけるスポーツ政策の変遷」（担当：阿部征大）</p> <p>第9回：「スポーツと社会化社会化の概念」（担当：阿部征大）</p> <p>第10回：「体育の社会的構造と機能」（担当：阿部征大）</p> <p>第11回：「障害者スポーツの課題と可能性」（担当：阿部征大）</p> <p>第12回：「地域スポーツの現状と課題」（担当：阿部征大）</p> <p>第13回：「地域スポーツクラブの運営と役割」（担当：阿部征大）</p> <p>第14回：「フィットネス産業の現状と今後」（担当：阿部征大）</p> <p>第15回：「まとめ」（本講義までの復習と整理）（担当：阿部征大）</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			

テキスト なし
参考書・参考資料等 『スポーツ社会学講義』（森川貞夫・佐伯聰夫編著、1988年、大修館書店） 『スポーツ史講義』（稲垣正浩・谷釜了正編著、1995年、大修館書店） 適宜資料を配布する。
学生に対する評価 ・提出物：30%（各講義にて与えられたミニレポート） ・課題レポート：70%（課題に対して自身の考え（立場）をその根拠とともに説明できる）

授業科目名： バイオメカニクス	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 久野 峻幸
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・筋や腱の動態を考慮したバイオメカニクスの観点から身体運動について説明できる。</li> <li>・スポーツやヒトの動きの中でのバイオメカニクスの役割とその応用について理解する。</li> <li>・科学的データからパフォーマンス向上などの指導に必要な情報を抜き取り、考察できる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>この科目はバイオメカニクスの観点から身体運動やスポーツパフォーマンスに関わるさまざまな因子について解説する。身体の動きや働きについて力学的基礎知識をもとに理解し、身体の動きにどのように応用されているか学修する。またディプロマポリシーに記されている「様々な課題を発見し、それを科学的に分析する能力」を養うものであり、様々な運動に対する「自分の能力を伸ばす」ことを促進する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「ガイダンス」（バイオメカニクスについての説明を含む）」</p> <p>第2回：「身体を動かす筋と腱の役割」</p> <p>第3回：「身体を動かす筋のエネルギー源」</p> <p>第4回：「身体を動かす筋に命令する神経の構造と機能」</p> <p>第5回：「運動に関わる身体の構造」</p> <p>第6回：「身体運動と力学の法則」</p> <p>第7回：「立つ 座る（姿勢の調整と身体重心について）」</p> <p>第8回：「歩くから走る（移動速度、ストライドとピッチ、キック力、関節運動）」</p> <p>第9回：「跳ぶ（放物運動、幅跳びと高跳び）」</p> <p>第10回：「投げる（色々な投げ：陸上投てきから野球まで）」</p> <p>第11回：「打つと蹴る（物体への衝撃力、運動量保存則、作用と反作用）」</p> <p>第12回：「泳ぐ（姿勢と浮力、推進力と水抵抗）」</p> <p>第13回：「滑る（スキーやスケートでの抵抗、慣性モーメント）」</p> <p>第14回：「自転車を漕ぐギアシステム」</p> <p>第15回：「まとめと確認」（定期試験対策問題を実施し、復習する）</p> <p>定期試験を実施する。</p>			

**テキスト**

スポーツ・バイオメカニクス入門 - 絵で見る講義ノート - (金子公宥著、杏林書院)

**参考書・参考資料等**

機能解剖・バイオメカニクス (北川 薫著、文光堂)

バイオメカニクス 身体運動の科学的基礎 (金子公宥、福永哲夫著、杏林書院)

**学生に対する評価**

定期試験50%・ミニレポート課題30%・レポート課題20%

授業科目名： スポーツコーチング 論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 皆川 孝昭
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・スポーツ指導において必要とされる知識や技能などを理解し、スポーツ指導者として必要とされる基礎的資質を身に付ける。 ・スポーツの指導現場において成果が期待できるような指導法についての基礎的知識と具体的な方法について理解し、その理論的背景や実践上のポイントを説明できる。			
授業の概要 スポーツ指導者の義務と責任、スポーツ指導上の問題点、スポーツ指導者として必要とされる基本的な知識や対象者に応じた指導方法について、実際の指導事例について深く考えたり、学生自身の考えをきちんと持たせた上で他者と意見を共有させたりすることなどによって、具体的に深い学びになるよう工夫を行いながら進行させる。			
授業計画 第1回：「ガイダンス」（スポーツ指導・コーチングの概念） 第2回：「スポーツ指導者の資質、指導哲学の確立」 第3回：「指導目的・コーチングスタイルの選択」 第4回：「人格の指導、多様な選手の指導について」 第5回：「筋力トレーニングの基本的な考え方」 第6回：「体力の構成要素と全身持久力トレーニングの基本的な考え方」 第7回：「選手の栄養管理と食事について」 第8回：「指導のための計画」 第9回：「選手とのコミュニケーション」 第10回：「選手のモチベーションの向上、肯定的な規律づくりについて」 第11回：「チームマネジメント・人間関係のマネジメント」 第12回：「指導方法（戦術的スキルの指導、技術的スキルの指導）」 第13回：「安全管理とリスクマネジメント」 第14回：「スポーツ指導者育成プログラムの現状と問題点」 第15回：「まとめ」（スポーツコーチングについて） 定期試験は実施しない。			

テキスト

なし。

参考書・参考資料等

「コーチング学への招待」(日本コーチング学会、大修館書店)

学生に対する評価

講義ノートの提出40%、小テスト及び課題レポート60%

授業科目名： 生理学（運動生理学を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 辻 慎太郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学（運動生理学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人体の生理的構造・機能及び運動時における生体機能の変化を理解する。</li> <li>・運動指導者として必要な運動生理学に関する基礎知識を習得する。</li> <li>・健康増進やスポーツパフォーマンス向上のために必要な知識を身につける。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>運動時における生体の反応や変化を科学的に理解し、運動指導者または、スポーツの専門家として必要とされる基礎的知識を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション」(生理学について(体水分と体温))</p> <p>第2回：「運動生理学の基礎」</p> <p>第3回：「運動と骨格筋（筋収縮）」</p> <p>第4回：「運動と骨格筋（エネルギー供給機構）」</p> <p>第5回：「運動と呼吸」</p> <p>第6回：「運動と循環」</p> <p>第7回：「運動と神経」</p> <p>第8回：「神経とホルモン」</p> <p>第9回：「レジスタンス運動における反応」</p> <p>第10回：「有酸素運動における反応」</p> <p>第11回：「運動と栄養（栄養と消化）」</p> <p>第12回：「運動と発育発達（発達）」</p> <p>第13回：「運動と発育発達（中高齢者）」</p> <p>第14回：「運動と生活習慣病」</p> <p>第15回：「まとめ」</p> <p>定期試験を実施する。</p>			
<p>テキスト</p> <p>なし。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>スポーツ生理学からみたスポーツトレーニング（ジェイ ホフマン著、大修館書店）</p>			

新・スポーツ生理学（三村寛一著、嵯峨野書院）  
生理学の基本がわかる事典（石川隆監修 西東社）

学生に対する評価

ミニレポート課題20%、小テスト30%、定期試験50%

授業科目名： 機能解剖学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 久野 峻幸
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学（運動生理学を含む。）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ・目的に応じた適切な運動プログラムを提案するために必要な運動の力学的・解剖学的特性を理解する。 ・運動に関わる身体各部分の構造や機能について運動を科学的に説明することができるようにする。			
<b>授業の概要</b> この科目は、身体運動に関わる力学、身体各部分の構造や機能について理解し、運動プログラムを作成する上で必要な基礎的知識を身につける。			
<b>授業計画</b> 第1回：「ガイダンス」（運動力学の基礎） 第2回：「運動の法則、力とエネルギー」 第3回：「骨・関節の構造と機能」 第4回：「骨格筋の構造と機能、筋の収縮」 第5回：「解剖学の基礎」 第6回：「上肢の解剖学」 第7回：「上肢帯・肩関節の運動学」 第8回：「肘関節・手の運動学」 第9回：「下肢の解剖学」 第10回：「股関節の運動学」 第11回：「膝関節の運動学」 第12回：「足関節・足部の運動学」 第13回：「体幹の解剖学、頸椎の運動学」 第14回：「胸椎・腰椎・骨盤の運動学」 第15回：「まとめ」（定期試験に備え、これまでの授業内容を復習する） 定期試験を実施する。			
<b>テキスト</b> Clem W. Thompson 著「身体運動の機能解剖」医道の日本社			
<b>参考書・参考資料等</b>			

機能解剖・バイオメカニクス（北川 薫著、文光堂）

「オーチスのキネシオロジー身体運動の力学と病態力学」（Carol A. Oatis, PT, PhD著Round Flat）

学生に対する評価

- ・ 定期試験60%
- ・ 講義ノートの提出30%（第1-14回目授業で提出し、採点後に返却）
- ・ グループレポート課題10%（グループディスカッションを行い、その報告書をレポート課題とする）

授業科目名： トレーニング論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 久野 峻幸
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学（運動生理学を含む。）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <p>体力の定義と概念、トレーニングの基礎理論を学び、トレーニングの原則と効果について理解し、様々な目的および対象に応じたトレーニング様式、強度、時間、頻度を設定し効果的なトレーニングプログラムが作成することができる。また、運動不足が健康に与える影響について理解し、生涯にわたる健康を維持していくために必要な運動について説明することができる。</p>			
<b>授業の概要</b> <p>本科目は、科学的根拠に基づく効果的なトレーニング方法について学修することを目的とし、健康の維持増進、あるいはスポーツパフォーマンス向上に関するトレーニングの知識を習得する科目である。</p>			
<b>授業計画</b> <p>第1回：「ガイダンス」トレーニングとは、授業計画・定義について学ぶ。  第2回：「トレーニング科学の基礎理論（体力とは）」  第3回：「トレーニングの原則と効果トレーニングを遂行する上での一般的な原則と効果を学ぶ」  第4回：「トレーニング計画立案の基礎理論（ピリオダイゼーションの基本理論）」  第5回：「筋力トレーニングの理論筋力の種類」  第6回：「筋力トレーニングのプログラム」  第7回：「パワー向上トレーニングの理論」  第8回：「パワー向上トレーニングのプログラム」  第9回：「持久力向上トレーニングの理論」  第10回：「持久力向上トレーニングのプログラム」  第11回：「ウォーミングアップとクーリングダウン」  第12回：「競技力向上のためのトレーニング（SAQトレーニングの効果）」  第13回：「健康づくりのための運動とプログラム」  第14回：「中高年齢期の介護予防運動とプログラム」  第15回：「トレーニング施設の管理と運営」</p> <p>定期試験を実施する。</p>			
テキスト			

なし。
参考書・参考資料等 ・トレーニング指導者テキスト実践編（NPO法人日本トレーニング指導者協会、大修館書店） ・健康運動実践指導者養成用テキスト（公益財団法人健康・体力づくり事業財団、南江堂）
学生に対する評価 課題提出20%、講義ノート20%、試験60%

授業科目名： 保健衛生学（公衆衛生学を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平松 恵子
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 衛生学・公衆衛生学		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1．健康維持への生活環境、栄養、衛生について説明できる。</p> <p>2．健康維持増進を目的として定められた法規を列挙できる。</p>			
授業の概要			
<p>社会や環境が人間の健康にどのように影響するかについて学び、健康増進のための食生活・食習慣についての基礎知識を身につける。また、感染症に対する予防対策についても学ぶ。さらにそれらに関する法規・法令について学ぶ。</p>			
授業計画			
第1回：「ガイダンス」(衛生・公衆衛生学概論)			
第2回：「健康と疾病」(健康の定義、疾病の理解)			
第3回：「健康と疾病」(死亡統計、現代の健康問題)			
第4回：「環境保健」			
第5回：「環境汚染」			
第6回：「食物と健康」			
第7回：「食品衛生」(食中毒)			
第8回：「食品衛生」(食品添加物)			
第9回：「個人の生活衛生」			
第10回：「母子保健・小児保健・学校保健」			
第11回：「成人保健・老人保健」			
第12回：「精神保健」			
第13回：「学校保健」			
第14回：「労働衛生」			
第15回：「衛生行政」			
定期試験は実施しない。			
テキスト			
なし。			
参考書・参考資料等			
小山洋（監修） 辻一郎・上島通浩（編集） シンプル衛生公衆衛生学2023 南江堂			

学生に対する評価

確認テスト（4回）60%、事前事後学習の課題提出40%

授業科目名： 学校保健（小児保健 ・学校安全を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 津島 ひろ江 担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1．学校保健の概要と健康教育に関する基本的な知識・理解を深め、説明することができる。</p> <p>2．学校における保健教育と保健管理を理解し、指導者としての実践力を身につけている。</p> <p>3．児童・生徒の健康に影響を及ぼす様々な要因と疾病予防対策を理解し、必要な実践力を身につけている。</p>			
授業の概要			
<p>児童・生徒に健康で安全な学校生活を提供し、健全な心と体の発育・発達を促すことを主たる目的とする学校保健の内容を理解する。また、保健科教育、および学校安全の観点から、現在学校で課題とされている児童生徒の様々な健康問題に関する知識・理解を深め、教員として必要な資質を身につける。</p>			
授業計画			
第1回：「オリエンテーション」学校保健を受講する理由			
第2回：「学校保健行政と組織活動」			
第3回：「保健教育」保健学習			
第4回：「保健教育」保健指導			
第5回：「保健管理」対人管理			
第6回：「保健管理」対物管理			
第7回：「児童生徒の健康問題」感染症とその予防・対策			
第8回：「児童生徒の健康問題」注意すべき子どもの病気と予防・対策			
第9回：「児童生徒の健康問題」発育・発達，学校における性教育			
第10回：「児童生徒の健康問題」喫煙・飲酒・薬物乱用について			
第11回：「精神の健康」メンタルヘルス，ストレス・マネジメント教育とは			
第12回：「精神の健康」ストレス・マネジメント教育，リラクゼーション訓練			
第13回：「学校安全について」教育現場における事故・ケガと応急処置			
第14回：「学校安全について」交通事故とその防止			
第15回：「まとめ・授業の復習」			
定期試験を実施する。			
テキスト			

中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成29年7月 - 平成29年告示（文部科学省著、東山書房）

高等学校学習指導要領解説 保健体育編 平成30年7月 - 平成30年告示（文部科学省著、東山書房）

参考書・参考資料等

適宜指示する。

学生に対する評価

定期試験（80%）、グループレポート課題20%（グループディスカッションを行い、その報告書をレポート課題とする）

授業科目名： 精神保健	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中田 喜一 担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>心の健康に対する一般の人々の関心は高まり、援助を必要としている人も増加している。教員を目指すものとして、精神保健についての正しい知識を身に付け、生徒一人ひとりの行動、発達状況、環境等を正しく理解し、適切な援助をすることが必須である。この授業ではそれを実施するための知識を学習し、実際の対応について学習する。</p>			
授業の概要			
<p>人間発達と精神保健のつながりについて説明することができる。精神的な問題について理解し説明することができる。精神的な問題を抱えた生徒、保護者に対応できる基本的な技術を身に付ける。本学のディプロマポリシーに掲げるさまざまな人とのコミュニケーションに必要な能力や専門的な指導力を身につけていく。</p>			
授業計画			
第1回：「オリエンテーション/子どものライフサイクル 未成年期の分類について）			
第2回：「総論：子どものライフサイクル」（乳幼児期、学童期、思春期、青年期の精神保健）			
第3回：「子どものライフサイクル」（AYA世代の精神保健、精神医学、精神保健からみた親子関係）			
第4回：「精神疾患-発達障害」（発達障害の全体像、ASD（自閉症スペクトラム症、自閉症スペクトラム障害）、ADHD（注意欠如/多動性障害））			
第5回：「精神疾患-発達障害」（LD（学習障害）、知的障害、吃音、DCD（発達性協調運動障害）、チック症）			
第6回：「精神疾患-発達障害」（発達障害の二次合併症）			
第7回：「その他の精神神経疾患」（精神疾患の分類、不安障害、強迫性障害等）			
第8回：「その他の精神神経疾患」（心的外傷、ストレス因関連障害、うつ病、統合失調症）			
第9回：「その他の精神神経疾患」（食行動障害、摂食障害および排泄症、睡眠障害、心身症）			
第10回：「子どもの心の問題について」（児童虐待、不登校と引きこもり、自傷、自殺）			
第11回：「子どもの心の問題について」（非行と素行障害、ゲーム障害やインターネット依存）			
第12回：「子どもの心の問題について」（喫煙・飲酒・薬物関連障害、攻撃性、性の健康）			
第13回：「子どもの支援について」（社会支援の理解とその活用、連携やコンサルテーション）			
第14回：「子どもの支援について」（心理支援、家族支援、薬物治療）			
第15回：「学習到達度の確認・解説」			

定期試験は実施しない。
テキスト 「対人援助の現場で使える質問する技術便利帖 2019」大谷 佳子 翔泳社
参考書・参考資料等 適宜指示する。
学生に対する評価 課題レポート60%、小レポート40%

授業科目名： 救急処置法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山下 優子
			担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 スポーツの現場における救急処置法に関する知識・理解に基づき、その具体的な方法を習得し、実践することができる。			
授業の概要 年齢層や障害の有無に関係なく幅広く行われる運動やスポーツの現場において、一般的に起こりやすい事故の救急処置法の理論と実習について知識を深める。また、成人および小児の心肺蘇生法、およびスポーツの現場における救急処置法を習得する。			
授業計画 第1回：「学校における救急処置の位置づけ」 第2回：「学校における救急処置」 第3回：「学校救急処置の流れ」 第4回：「救急処置に必要な解剖と生理学」 第5回：「スポーツ外傷の救急処置」 第6回：「スポーツ現場における内科的疾患の応急手当」 第7回：「心肺蘇生法の実際」 第8回：「一次救命救急処置」 第9回：「救急時の感染対策」 第10回：「ケガの応急措置」 第11回：「医療機関、消防署、主治医などとの連携」 第12回：「スポーツ障害におけるヒヤリハット、アクシデント」 第13回：「救急処置の記録」スポーツ振興センター給付 第14回：「救急物品や書類の管理」 第15回：「救急処置の記録の重要性」 定期試験を実施する。			
テキスト なし。			
参考書・参考資料等 図解 救急救命処置法（救急問題研究会著、東京法令出版）			

学生に対する評価

試験（筆記・実技）80%、授業課題 20%

授業科目名： 保健体育科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名： 西本浩章
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>中学校及び高等学校における保健体育科の意義や目標を理解し、保健体育科に関する基礎的知識や教材理解に必要な基礎的能力を身に付け、これからの保健体育科のあり方について考え、実践できる能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>中学校及び高等学校における保健体育科教育の目的・内容・方法について、学習指導要領及び配付資料をもとに解説し、「保健体育科とはどのような教科なのか」について学ぶ。また、めざす授業のイメージを描きながら、具体的にどのように授業を行うのかについて、随時集団討議や演習を入れながら追求していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（よい体育授業について）</p> <p>第2回：保健体育科とはどのような教科なのか</p> <p>第3回：保健体育科の現状と問題点</p> <p>第4回：現代社会における体育教師像</p> <p>第5回：保健体育科の目標と学力</p> <p>第6回：保健体育科の領域編成について</p> <p>第7回：小学校とのつながりと発展</p> <p>第8回：選択制授業と男女共習授業</p> <p>第9回：学習指導要領の変遷からみた学校体育</p> <p>第10回：保健体育科の教育内容とカリキュラム</p> <p>第11回：保健体育授業の構造と授業の組み立て</p> <p>第12回：ICTを活用した保健体育科の教材研究、指導案、授業展開の技術</p> <p>第13回：保健体育科の評価・評定</p> <p>第14回：指導計画の作成について</p> <p>第15回：これからの保健体育科のあり方、ICTを用いた授業実践事例</p> <p>第16回：各論 体づくり運動</p> <p>第17回：各論 器械運動</p>			

第18回：各論 陸上競技

第19回：各論 水泳

第20回：各論 球技

第21回：各論 武道

第22回：各論 ダンス

第23回：各論 体育理論

第24回：各論 保健

第25回：学習指導案の作成（単元計画）

第26回：学習指導案の作成（本時案）

第27回：模擬授業（球技等，武道，体育理論）

第28回：模擬授業（器械運動，陸上競技，水泳）

第29回：模擬授業（体づくり運動，ダンス，保健）

第30回：保健体育科においてめざす授業イメージ、まとめ

定期試験は実施しない

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成29年7月-平成29年告示』東山書房、2018年

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 平成30年7月-平成30年告示』東山書房、2019年

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業課題（事前事後課題、レポート等を含む）70%、指導案30%（模擬授業内で解説）により総合的に評価します

授業科目名： 保健体育科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 4単位	担当教員名： 西本浩章
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校における保健体育科の意義や目標を理解し、保健体育科授業づくりに関する専門的知識及び指導法を講義・演習・実技を通して身につける。			
授業の概要 中学校における保健体育科教育の目的・内容に関わる専門的知識、指導法を中学校学習指導要領及び配布資料をもとにした講義・演習を通して理解する。さらに、講義・演習で理解した内容について実技を通して実践力へと高めていく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 第2回：中学校保健体育科の目標と内容 第3回：中学校保健体育科の領域編成について 第4回：体づくり運動 「体ほぐし」運動の指導法 第5回：体づくり運動 「体力を高める運動」の指導法 第6回：陸上競技 「短距離走」の指導法 第7回：陸上競技 「跳躍競技」の指導法 第8回：器械運動 「器械運動」の歴史的発展及び器械運動の目標と内容 第9回：「マット運動」の指導法 第10回：球技 「ゴール型、ネット型、ベースボール型」に類型化された背景及び目標と内容を理解 第11回：球技 「ゴール型」対象に、戦術理解に焦点を当てた指導法 第12回：水泳 命を守る水泳指導を軸に、「水泳」の目標と内容を理解 第13回：ダンス「ダンス」の目標と内容の理解 第14回：武道 「武道」の目標と内容の理解 第15回：まとめ 前期のふり返りとまとめ 第16回：保健分野の目標と内容の理解 第17回：体育理論の目標と内容を理解 第18回：中学校保健体育科の領域編成について 第19回：よい体育授業を生み出す基礎的条件の理解			

第20回：よい体育授業を生み出す内容的条件の理解

第21回：よい体育授業の核である教材づくりの理解

第22回：中学校保健体育科学習指導案について

第23回：指導案作成（教材研究）

第24回：指導案作成（単元計画、本時目標）

第25回：指導案作成（本時案、本時展開）

第26回：模擬授業と振り返り（Aグループ）

第27回：模擬授業と振り返り（Bグループ）

第28回：指導案作成（本時目標と本時展開の修正）

第29回：模擬授業と振り返り（Cグループ）

第30回：まとめ 後期の振り返りとまとめ

定期試験を実施しない

テキスト

文部科学省『中学校学習指導要領解説 保健体育編 平成29年7月-平成29年告示』東山書房、2018年

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 保健体育編 平成30年7月-平成30年告示』東山書房、2019年

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業課題（レポート等を含む）・授業への取り組み 70%、学習指導案および模擬授業 30%により総合的に評価します

授業科目名： レクリエーション基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 辻 慎太郎
			担当形態： 単独
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 1．余暇とレクリエーションの社会的意義が理解できる。 2．レクリエーション支援者の役割が理解できる。 3．コミュニケーションによる信頼関係づくりについて学習する。 4．楽しさを基本としたレクリエーション事業計画の流れが理解でき、立案できる			
<b>授業の概要</b> 子どもから高齢者までの各世代にわたる心身の健康、及びレクリエーション活動の普及・推進を目指した「レクリエーション・インストラクター」資格の学習内容に基づき、レクリエーションの基礎理論を展開する。			
<b>授業計画</b> 第1回：「レクリエーション概論（レクリエーション支援・インストラクターの役割）」 第2回：「楽しさと心の元気づくりの理論」 第3回：「余暇生活と生活時間の三領域」 第4回：「子どもの元気づくりとレクリエーション活動（理論）」 第5回：「高齢者の元気づくりとレクリエーション活動（理論）」 第6回：「レクリエーション支援の理論（コミュニケーションと信頼関係づくり）」 第7回：「レクリエーション支援の理論（良好な集団づくりの理論）」 第8回：「レクリエーション支援とホスピタリティ」 第9回：「レクリエーション事業の考え方」 第10回：「レクリエーション事業の展開方法」 第11回：「レクリエーション事業の企画」 第12回：「レクリエーション事業の運営」 第13回：「レクリエーション事業の評価と安全管理」 第14回：「レクリエーション事業での援助者の役割」 第15回：「学習のまとめ」レクリエーションの援助方法や運営・企画など 定期試験を実施する。			
<b>テキスト</b> 楽しさをとおした心の元気づくり～レクリエーション支援の理論と方法～（小西 亘、公益			

財団法人日本レクリエーション協会)

参考書・参考資料等

なし。

学生に対する評価

振り返り用紙：20%、レク活動の作成：30%、筆記試験：50%

授業科目名： レクリエーション指 導法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 辻 慎太郎
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 1. レクリエーション支援者の役割を理解し、目的に合わせたレクリエーション活動の指導法が習得できる。 2. 対象に合わせたレクリエーション活動のアレンジ方法を理解し、指導できる。 3. レクリエーション行事の計画作成力が習得できる。			
<b>授業の概要</b> 子どもから高齢者までの各世代にわたる心身の健康、及びレクリエーション活動の普及・推進を目指した「レクリエーション・インストラクター」資格の学習内容に基づき、レクリエーション実技の指導法について学ぶ			
<b>授業計画</b> 第1回：「アイスブレイキング（IB）」 第2回：「コミュニケーションワーク（CW）」 第3回：「IB&CW&様々な活動の体験 生涯スポーツ等」 生涯スポーツの意味や役割を理解し、IB・CW がどのような場面で活用できるかを学び、実践する。 第4回：「IB&CW&様々な活動の体験 生涯スポーツ等」 生涯スポーツ活動を通じた、レクリエーション活動の方法を学び、実践する。 第5回：「IB&CW&な活動の体験 介護予防プログラム等」 介護予防に関連した IB・CW の方法を学び、実践する。 第6回：「グループ活動の指導演習（1人10分ずつ）1回目」 レク活動のプログラムを作成し、実践する。 第7回：「グループ活動の指導演習（1人10分ずつ）2回目」 目的に応じたレク活動のプログラムを作成し、実践する。 第8回：「グループ活動の指導演習（1人10分ずつ）3回目」 対象者に応じたレク活動プログラムを作成し、実践する。 第9回：「グループ活動の指導演習（1人10分ずつ）4回目」 言葉がけや工夫を考慮したレク活動のプログラムを作成し、実践する。 第10回：「グループ活動の指導演習（1人10分ずつ）5回目」			

<p>ケーススタディを考慮した、レク活動のプログラムを作成し、実践する。</p> <p>第11回：「指導法 相互作用の活用や声かけの工夫」</p> <p>第12回：「指導法 対象目的に合わせたアレンジ法、展開法」</p> <p>第13回：「スポーツレクリエーション行事の計画」</p> <p>第14回：「スポーツレクリエーション行事の運営」</p> <p>第15回：「まとめ」全授業の復習と計画書や指導案の再確認を行う</p> <p>定期試験は実施しない。</p>
<p>テキスト</p> <p>なし。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>楽しいアイスブレーキングゲーム集（三浦一朗、日本レクリエーション協会）</p> <p>たのしいレクリエーションゲーム集（若松範彦、西東社）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>振り返り用紙30%、実技指導評価30%、最終レポート40%</p>

授業科目名： 道徳教育の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野本 玲子 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 道徳の理論として、道徳の本質（道徳とは何か）、道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）、子供の心の成長と道徳性の発達、学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解し、説明することができる。</p> <p>(2) 道徳の指導法として、道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性、道徳科の特質を生かした多様な指導方法、道徳科の特性を踏まえた学習評価を理解し、道徳科の教材の特徴を踏まえて授業設計に活用し、授業のねらいや指導過程を明確にして学習指導案を作成することができ、模擬授業の実施と振り返りを通して授業改善の視点を身につけている。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この講義では、教育の根本精神に基づき、道徳の意義や原理を踏まえ、学習指導要領に示す「学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育」の方法を理解するとともに、その「要」となる「特別の教科 道徳（道徳科）」の目標並びに内容、指導計画などを理解し、教材研究及び学習指導案の作成、模擬授業などを通して、実践的な指導力を身につける。教育現場の課題を踏まえながら、よりよい道徳教育について考え、子どもも大人も心が元気になるような道徳教育をおこなうために課題意識を持ち、エージェンシーを発揮して道徳的価値観形成と授業づくりをおこなう。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション・自分が受けた道徳教育の振り返り・道徳の本質（「道徳」とは何か）</p> <p>第2回：道徳教育・道徳科の目標・道徳の起源・道徳は教えることができるのか 新しい学習指導要領における道徳教育の考え方・教科化</p> <p>第3回：小中学校道徳の内容項目、「道徳性」（判断力・心情・実践意欲態度の諸様相）の考え方、道徳教育の歴史と現代社会における道徳教育の課題（いじめ・情報モラル等）の理解</p> <p>第4回：魅力的な道徳教材と授業づくり（1）読み物教材の登場人物への自我関与と指導方法</p> <p>第5回：魅力的な道徳教材と授業づくり（2）道徳的行為に関する体験的な学習と指導方法</p> <p>第6回：魅力的な道徳教材と授業づくり（3）問題解決的な学習と指導方法・「考え議論する」とは</p> <p>第7回：ねらいの考え方、道徳科学習指導案の書き方、導入・展開・終末の工夫</p>			

第8回：子どもの心の成長と道徳性の認知発達理論（デューイ、ピアジェ、コールバーグ、ヌッチ）  
 第9回：学校現場における道徳教育の指導計画、教育活動全体を通じた指導の必要性  
 第10回：道徳的価値葛藤のある授業体験・考え議論する学習の指導方法（発問、板書の工夫）  
 第11回：教科書教材を用いた授業体験による、主体的・対話的・深い学びの追究 ICTの可能性  
 第12回：道徳科の特質を踏まえた学習評価の在り方 ポートフォリオ、自己評価、通知票  
 第13回：模擬授業と授業評価（1）  
 第14回：模擬授業と授業評価（2）  
 第15回：模擬授業の振り返り・評価と授業改善のためのリフレクション、自分の学びのメタ認知  
 \* 定期試験を実施する

#### テキスト

金光靖樹編著『授業のための新・「教職」道徳教育論』教育情報出版、2022年  
 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』教育出版、2018年

#### 参考書・参考資料等

授業時、適宜指示する。

#### 学生に対する評価

【毎回の授業中の小レポート45点（3点×15回）】 + 【模擬授業（指導案・レポートを含む）15点】 + 【定期試験40点】で評価する。

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 加藤 敬介
			担当形態： 単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> ・日本国憲法の人権および統治機構の部分を中心に、各種憲法規範について理解し、説明できる。 ・憲法を中心とした、行政法や刑事法といった公法分野の法の基礎について理解し、説明できる。			
<b>授業の概要</b> 教職課程科目である日本国憲法について理解する講義である。大学入学までに学んできたであろう日本国憲法を主たる対象として扱う。日本国憲法の構造に沿って基本的な点から確認していく。			
<b>授業計画</b> 第1回：「法とは何か」(法の分類:憲法を含めた各種の法について) 第2回：「憲法とは」(憲法改正:憲法の基本理念、憲法の改正について) 第3回：「日本国憲法の構造」(三権分立:我が国の憲法の構造、統治機構の基本について) 第4回：「統治機構 国会」(立法権について) 第5回：「統治機構 内閣」(行政権について) 第6回：「統治機構 裁判所」(司法権について) 第7回：「基本的人権」(新しい人権:人権の分類・種類、いわゆる新しい人権などについて) 第8回：「自由権」(各種の精神的自由権について) 第9回：「自由権」(経済的自由権について) 第10回：「社会権」(生存権などの社会権について) 第11回：「参政権、その他の人権」(自由権や社会権以外の人権について) 第12回：「憲法におけるその他の規定」(人権、統治機構以外の憲法規定について) 第13回：「行政法」(行政法分野の基本について) 第14回：「刑事法」(刑事法分野の基本について) 第15回：「補足説明とまとめ」(日本国憲法の横断的まとめ) 定期試験を実施する。			
<b>テキスト</b> 「法学入門 第2版 はじめて学ぶ法学」(田中淳子・大野正博著、成文堂)			

参考書・参考資料等

授業中に紹介する。

学生に対する評価

筆記による定期試験60%（憲法を中心としたいわゆる公法的问题、及びそれらに対して適用される法制度への理解を評価する）に、レポート40%（各種概念等の講義内容の基本的理解を問う）を含め評価する。

授業科目名： 健康と運動の科学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 辻 慎太郎
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 自らの心身の健康を保持・増進するために運動やスポーツが果たす役割について理解し，明るく豊かな日常生活を送るために必要な生活習慣が理解できるようになる。また，日常生活において起こるさまざまな問題や要求に対して，適切かつ効果的に対処できるライフスキルについて理解する。			
<b>授業の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 身体の構造と機能についての基礎的な知識を理解し，適切な生活習慣を身につける。</li> <li>・ 心身の健康と日々の生活における運動・スポーツとの関連を正しく理解し，説明できるようになる。</li> </ul>			
<b>授業計画</b> 第1回：「オリエンテーション(健康とは)」 第2回：「健康管理・疾病予防」 第3回：「ライフスタイルと健康」 第4回：「飲酒・喫煙と健康」 第5回：「心の健康とストレス」 第6回：「睡眠と健康」 第7回：「体力と健康」 第8回：「健康と運動・スポーツとの関わり」 第9回：「安全管理(運動・スポーツ中の事故)」 第10回：「からだの仕組み（筋肉と健康）」 第11回：「からだの仕組み（骨と健康）」 第11回：「生涯スポーツ（幼児期・児童期のスポーツ）」 第12回：「生涯スポーツ（青年期のスポーツ）」 第13回：「生涯スポーツ（高齢者のスポーツ）」 第14回：「生涯スポーツ（障害者のスポーツ）」 第15回：まとめ（第2回から第14回の振り返り） 定期試験を実施する。			
テキスト			

なし。

参考書・参考資料等

生活習慣病の予防 健康づくりへのアプローチ（石川兵衛著、文光堂）

新・スポーツ生理学（三村寛一著、嵯峨野書院）

からだの発達と加齢の科学（高石昌弘監修 大修館書店）

学生に対する評価

ミニレポート課題30%、定期試験70%

授業科目名： 生涯スポーツ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高橋 広/田川 博久
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康と運動の関係性を理解し、生涯にわたってスポーツに親しむための知識や方法を身につける。</li> <li>・ 多様なスポーツ種目を経験する中で、人間の生活や社会におけるスポーツの価値を学び、集団における自己の役割やルールを遵守することの重要性を理解しながら、スポーツを楽しむことができる。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <p>この科目は、多様な運動・スポーツを題材に、基本的な技術を身につけるとともに、ルールや審判法を理解し、スポーツの楽しさに触れることを通じて、学習者同士で交流を図り、コミュニケーション能力の修得を目的としたものである。授業は、ゴール型・ネット型の競技をメインとし実施する。</p>			
<b>授業計画</b> 第1回：全体ガイダンス、フィットネスチェック（握力、長座体前屈、反復横とび） 第2回：フィットネスチェック（立ち幅跳び、上体起こし、シャトルラン）、種目選択 第3回：種目別ガイダンス、グループ分け、役割分担 第4回：種目特性の理解 第5回：ウォーミングアップ・ストレッチの基本と種目に応じた実施 第6回：基本技術の練習 第7回：基本技術を用いた簡易ゲーム 第8回：応用技術の練習 第9回：応用技術を用いた簡易ゲーム 第10回：ルール、審判法の理解 第11回：戦術の理解と工夫 第12回：個々の能力を活かした戦術によるゲーム展開 第13回：グループで戦術を共通理解して展開するゲーム 第14回：グループ対抗戦（リーグ戦） 第15回：グループ対抗戦（トーナメント戦）、まとめと評価 定期試験は実施しない。			

テキスト

なし。

参考書・参考資料等

授業中に紹介する。

学生に対する評価

毎回の授業のレポート（MAX6点×15回）、課題（MAX10点）で評価する。

授業科目名： 生涯スポーツ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 高橋 広/田川 博久
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康と運動の関係性を理解し、説明することができる。</li> <li>・ 基礎的な個人技能や集団技能を習得し、実際のゲームの中で活用することができる。</li> <li>・ 運動をする上で仲間との関係の重要性を理解し、仲間と円滑にコミュニケーションを図ろうとすることができる。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <p>運動と健康の関わりや運動の必要性について深く理解し、生涯にわたって運動習慣を継続して心身の健康の保持・増進を図ることのできる実践的な能力を身につける。授業は、ベースボール型・ニュースポーツの競技をメインとし実施する。</p>			
<b>授業計画</b> <p>第1回：「全体ガイダンス（健康と運動の関係性について学ぶ）」</p> <p>第2回：「種目別ガイダンス、グループ分け、役割分担」</p> <p>第3回：「種目特性の理解」</p> <p>第4回：「ウォーミングアップ・ストレッチングの基本」</p> <p>第5回：「基本技術の練習 種目に応じたウォーミングアップ・ストレッチング」</p> <p>第6回：「基本技術の練習 基本技術を用いた運動遊び」</p> <p>第7回：「基本技術の練習 応用技術を用いた運動トレーニング」</p> <p>第8回：ルールやスポーツにおけるマナーの理解</p> <p>第9回：審判法の理解</p> <p>第10回：「ミニゲーム 基本技術を用いた簡易ゲーム」</p> <p>第11回：「ミニゲーム 応用技術を用いた簡易ゲーム」</p> <p>第12回：戦術の理解と工夫</p> <p>第13回：グループ対抗戦（リーグ戦）</p> <p>第14回：グループ対抗戦（トーナメント戦）</p> <p>第15回：まとめと評価</p> <p>定期試験は実施しない。</p>			
<b>テキスト</b> <p>なし。</p>			

参考書・参考資料等

授業中に紹介する。

学生に対する評価

毎回の授業のレポート（MAX6点×15回）、課題（MAX10点）で評価する。

授業科目名： 英語	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 野本 玲子
			担当形態： 単独
科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Reading, Grammar, Listening, Writing の基礎を修得し、自己表現することができる。</li> <li>・ 総合的な英語表現力を高め、英語文化圏のコミュニケーションの方法について理解することができる。</li> <li>・ 異文化、時事問題など多方面に関心を持ち、将来自分の人生において英語を役立てることができるよう、世界の人たちとコミュニケーションがとれる話題と技能を有することができる。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <p>この科目は、大学生として必要な英語における基本的な技能（読む、書く、聞く、話す）および基本的な表現を英文法から復習し、社会で活用できるように修得する科目である。</p>			
<b>授業計画</b> <p>第1回：オリエンテーション：英語学習の振り返りと力の確認、活用のための目標設定</p> <p>第2回：Unit01 学修方法（シャドーイング オーバーラッピング）動詞の形 現在形・過去形</p> <p>第3回：Unit02 学修方法（リード&amp;ルックアップ）動詞の形 未来の表し方・進行形</p> <p>第4回：Unit03 学修方法（部分英作文 バックトランスレーション）動詞の形 完了形</p> <p>第5回：Unit04 Unit05 受動態（基本、助動詞が入った受動態・進行形・完了形の受動態）</p> <p>第6回：Unit06 Unit07 助動詞（基本、推量・可能性・助動詞+have+過去分詞）</p> <p>第7回：Unit08 Unit09 仮定法（基本、should/ were to・ifの省略・仮定法現在）</p> <p>第8回：Unit10 Unit11 不定詞（基本、否定語の位置、意味上の主語・原形不定詞・完了不定詞）</p> <p>第9回：Unit12 Unit13 動名詞（基本、意味上の主語・完了動名詞・動名詞の受動態）</p> <p>第10回：Unit14 Unit15 分詞（限定用法と叙述用法 分詞構文 with+独立分詞構文）</p> <p>第11回：Unit16 Unit17 Unit18 関係詞（基本、that 前置詞+関係代名詞・what・関係副詞）</p> <p>第12回：Unit19 Unit20 比較（基本・比較級/最上級の強調・書き換え・比較表現）</p> <p>第13回：リフレクションと活用（自己表現 英作文）</p> <p>第14回：リフレクションと活用（自己表現 スピーチ）</p> <p>第15回：リフレクションと応用（ウエルビーイングに向かうコミュニケーションとエージェンシー）</p> <p>定期試験を実施する。</p>			
テキスト			

「ユメブン1 高校修了～大学入試レベル (夢を叶える英文法)」(著：木村 達哉 出版社：アルク) 2011 ISBN：9784757420397

参考書・参考資料等

授業中に配布する。

学生に対する評価

毎回の授業のレポート (MAX3点 × 15回)、課題 (MAX15点)、定期試験 (MAX40点) で評価する。

授業科目名： コンピューターリテ ラシー演習 基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 後藤 靖司
			担当形態： 単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作 ・情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>学生・社会人として必要なコンピューターリテラシーを身に着けることを目指す。具体的にはMicrosoft Officeに含まれているWord、Excelを使用することによって情報機器の基礎的な知識を理解し、情報の収集、加工、伝達などの知的活動ができるようになる。</p>			
授業の概要			
<p>本科目は、パソコンの基礎的な使用方法の習得を通して、社会にある様々な問題や課題を解決したり、社会で関係する人々が理解するための文章や資料を作成することにより、学業だけでなく社会においても活用できる能力を身に付ける。</p>			
授業計画			
第1回：「オリエンテーション」教室のコンピューターの使い方、Google classroomの使い方			
第2回：「Wordを使った文書の作成」			
第3回：「タイピング練習」			
第4回：「グラフィック機能を使った文書の作成・編集」			
第5回：「表のある文書の作成・編集」			
第6回：「総合演習（Wordの復習）」			
第7回：「Excelでのデータ入力」			
第8回：「表の作成」			
第9回：「計算練習」			
第10回：「Excelでのグラフ」			
第11回：「データの分析」			
第12回：「WordとExcelの連携」			
第13回：「Excelでの関数(参照する関数や条件別処理の関数)」			
第14回：「ピボットテーブルを用いたクロス集計」			
第15回：「総合演習（Excelの復習）」			
定期試験を実施する。			
テキスト			
よくわかる Microsoft Word 2021 & Microsoft Excel 2021(Office 2021 / Microsoft 365対応)(富士通ラーニングメディア著、富士通ラーニングメディア(FOM出版))			

参考書・参考資料等

なし。

学生に対する評価

評価の割合は、毎回提出してもらった課題を70%、定期試験を30%とする。

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 太田 明
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> 教育の歴史や思想についての学びを深め、それらとの連関において教育の原理となる概念や理念の理解を深める。また、教育における不易・流行を押さえつつ、これまでの教育および学校のあり様を捉えつつ、今日の学校・家庭・社会の教育における現状と課題を明らかにし、将来における教育に展望をもち、実践に向けた教育観を構築することを目標とする。			
<b>授業の概要</b> 本授業では、全人的な視点からの教育の意味、教育の目的と理念、教育の歴史、教育の内容と方法、人間の発達と教育、教育機関と管理、教育課程と学習指導法、学習指導要領、教員養成、さらに今日の教育課題と展望などについて学ぶ。双方向の授業となるよう必要に応じてディスカッションや発表等も取り入れる。			
<b>授業計画</b> 第1回：教育の意味（教育の必要性和教育の可能性） 第2回：人間の発達と教育（発達におよぼす素質と環境の影響） 第3回：教育の歴史と思想（近代的教育システムの胎動） 第4回：教育の歴史と思想（戦前期の教育思想とその教育理念） 第5回：教育の歴史と思想（戦後教育改革の教育思想とその教育理念） 第6回：教育の歴史と思想（現代教育制度改革の教育思想とその教育理念） 第7回：教育方法の原理 第8回：教育課程の原理 第9回：教育課程の歴史的変遷 第10回：学校経営と学級経営 第11回：教育制度 第12回：教育行政と教育委員会 第13回：学校・教師の社会的役割と教師像の変遷 第14回：教育の今日的課題と展望 第15回：まとめ 定期試験を実施する			

**テキスト**

下地秀樹・水崎富美・太田明・堀尾輝久編『新版 地球時代の教育原理』三恵社、2020年

**参考書・参考資料等**

参考資料は適宜、提示する。また、取得予定の教員免許に応じて以下を用意すること。

文部科学省『中学校学習指導要領』2015年

文部科学省『高等学校学習指導要領』2015年

**学生に対する評価**

定期試験（70%）、レポート等提出物（30%）による評価。

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 萩原 和孝、阿曾 奈生
			担当形態： オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容などについて身につけ、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。具体的には以下のとおりである。</p> <p>(1) 教職の意義として</p> <p>公教育の目的と教員の存在意識を考え、理解し、説明することができる。</p> <p>進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特長を理解し、自分自身を見つめて語るすることができる。</p> <p>(2) 教員の役割として</p> <p>教職観の変遷を踏まえ、教員に求められる役割を理解し、説明することができる。</p> <p>今日の教員に求められる資質能力を考え、理解し、自分自身を見つめて語るすることができる。</p> <p>(3) 教員の職務内容として</p> <p>生徒への指導及び授業以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解し、説明することができる。</p> <p>教員研修の意義及び制度上の位置づけ並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解し、説明することができる。</p> <p>教員に課せられる職務上、サービス上の義務及び身分保障を理解し、説明することができる。</p> <p>(4) チーム学校への対応として</p> <p>校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解し、説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>1. わが国における今日の学校教育や「教職の社会的意義」、2. 教員の動向を踏まえた「教員に求められる役割や資質能力」、3. 「教員の職務内容」の全体像や教員に課せられるサービス上・身分上の義務、4. 学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担し「チーム学校」として対応する必要性について理解する。</p> <p>教員に必要な資質能力と知識を身につけることを目的とし、具体的に教員の立場で考えたり</p>			

行動したりして体験していく中で、教員の仕事の重要性和難しさを感じながら、教職のあり方を考えていく。

#### 授業計画

第1回：オリエンテーション（担当：萩原和孝、阿曾奈生）

現代社会における教職の意義、教員に必要な資質能力、ユマニチュードの哲学

第2回：わが国における教員養成と採用選考（担当：萩原和孝）

第3回：授業づくりと教師 校内研修 【ミニ模擬授業の計画準備】（担当：萩原和孝）

第4回：学級づくりと教師 いじめ問題への対応（担当：萩原和孝）

第5回：管理運営と教師 学校経営・校務分掌・組織マネジメント・チーム学校（担当：萩原和孝）

第6回：教員の資質能力 教職の役割・答申・法定研修・教員免許更新制度（担当：萩原和孝）

第7回：教員の地位とサービス 身分と任用、懲戒・分限 【ミニ模擬授業体験】（担当：萩原和孝）

第8回：諸外国の教員養成 【ミニ模擬授業体験】（担当：萩原和孝）

第9回：教育課程の編成と学習指導要領 文部科学省・教育委員会・学校（担当：萩原和孝）

第10回：道徳教育・特別活動指導から教師に求められるもの 【プレゼンの計画準備】（担当：阿曾奈生）

第11回：教科の授業力 21世紀を担う子どもに求められる資質・能力（担当：阿曾奈生）

第12回：学生のプレゼンテーション 地域を知る 探究活動 授業力（担当：阿曾奈生）

第13回：学生のプレゼンテーション 高校生の生活（担当：阿曾奈生）

第14回：学生のプレゼンテーション 学力概念の変遷 評価練習（担当：阿曾奈生）

第15回：子どもの遊びとスポーツ 学びのリフレクション（担当：阿曾奈生）

定期試験を実施する。

#### テキスト

井藤 元編『ワークで学ぶ教職概論』ナカニシヤ出版、2017年

#### 参考書・参考資料等

なし。

#### 学生に対する評価

【毎回の授業中の小レポート、事後のレポート45点（3点×15回）】+【模擬授業（プレゼン）課題（レポートを含む）15点】+【定期試験40点】で評価する。

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉田 武大
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育制度の歴史的背景の解釈をもとに、教育制度の変革とそこにいだかれる目標について生涯学習の一環から、法的、制度的、理念的に教育制度を探究する。</p> <p>到達目標1：我が国の公教育の制度の特徴とそれを支える基本理念の解明に基づき、それらを説明できる。</p> <p>到達目標2：学校教育の制度の特徴およびその裏付けの基本理念を理解し、説明できる。</p> <p>到達目標3：現代的な教育制度の諸問題を分類し、社会的あるいは教育制度的観点から分析・理解する、その上で自分の意見を発表できるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、次の課題を重要な課題とする。</p> <p>わが国の公教育制度の基本理念や特徴を明らかにする。歴史的探究、教育法規に基づいて理解する。</p> <p>公教育制度の中核を担う学校教育を焦点化し、果たすべき機能や特徴を的確に把握する。</p> <p>現代の教育問題や教育政策の動向から公教育制度が抱える諸問題と諸課題を解決する方策を発見する。</p> <p>公教育が歩んできた制度史・思想史を踏まえながら、 の問題や課題を社会学的見解から探究する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（授業の目的・展開・方法などについて説明、質疑する。）</p> <p>第2回：公教育とは何か（戦前の公教育制度とその基本理念）</p> <p>第3回：公教育とは何か（戦後の公教育制度とその基本理念 教育の機会均等）</p> <p>第4回：学校教育の3形態と学校教育の制度的特徴</p> <p>第5回：学校教育のカリキュラムと教育課程</p> <p>第6回：学校のシステム文化</p> <p>第7回：学校教育とクラス空間・学校空間、学校経営・学級経営</p> <p>第8回：学校教育の社会的機能、学校と地域との連携（学校による社会改造と社会による学校改造）</p>			

<p>第9回：公教育制度の揺らぎ（教育の機会均等と結果の平等）</p> <p>第10回：公教育制度の揺らぎ（公教育と教育の私事化～一貫教育制の導入～）</p> <p>第11回：公教育制度の揺らぎ（戦後の教育政策の動向と公教育制度のパラドクス）</p> <p>第12回：公教育制度のパラドクスはなぜ生じたのか（民主主義と教育）</p> <p>第13回：公教育制度の国際的比較・歴史的比較</p> <p>第14回：学校教育・学校外教育と市民形成</p> <p>第15回：安全教育、学校の安全の必要性を考える。</p> <p style="padding-left: 40px;">危機管理や自己対策を含む学校の安全の必要性について考える。</p> <p style="padding-left: 40px;">生活安全、交通安全、災害安全の各領域や学校を、取り巻く新たな安全上の課題について考察する。</p> <p>定期試験を実施する</p>
<p>テキスト</p> <p style="padding-left: 40px;">地秀樹・水崎富美・太田明・堀尾輝久編『新版 地球時代の教育原理』三恵社、2020年</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p style="padding-left: 40px;">参考資料は適宜、提示する。また、取得予定の教員免許に応じて以下を用意すること。</p> <p style="padding-left: 40px;">文部科学省『中学校学習指導要領』2015年</p> <p style="padding-left: 40px;">文部科学省『高等学校学習指導要領』2015年</p>
<p>学生に対する評価</p> <p style="padding-left: 40px;">定期試験（60%）、レポート等提出物(40%)による評価</p>

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山口 雄介、石井 恒生
			担当形態： オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1．人間の学習過程について説明することができる。</p> <p>2．人間の心身の発達過程のメカニズムを説明することができる。</p> <p>3．人間の学習過程や発達段階を踏まえた指導の具体例を考えることができる。</p>			
授業の概要			
<p>・この科目は、中学校・高等学校の教員として児童や生徒の成長・発達を支援するために必要な心理学的な視点を身につけることを目標とする。具体的には、 幼児、児童及び生徒の学習を支える心理的メカニズムを理解する、 人間の心身の発達過程を理解し、 発達を踏まえた学習のあり方を考えることを目指す。</p> <p>・この科目は、教員の免許状取得のための科目のうち「教育の基礎的理解に関する科目」の一つとして位置づけられている。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス・教育心理学の意義（担当：山口雄介、石井恒生）			
第2回：学習のメカニズム（担当：石井恒生）			
第3回：記憶のメカニズム（担当：石井恒生）			
第4回：動機づけと学習（1）：動機づけの基礎理論（担当：石井恒生）			
第5回：動機づけと学習（2）：動機づけ理論に基づく指導法（担当：石井恒生）			
第6回：メタ認知の獲得と学習（担当：石井恒生）			
第7回：学習方略と自己調整学習（担当：石井恒生）			
第8回：発達（1）：発達をどう捉えるか（担当：山口雄介）			
第9回：発達（2）：発達の段階論（担当：山口雄介）			
第10回：発達（3）：運動の発達（担当：山口雄介）			
第11回：発達（4）：認知の発達（担当：山口雄介）			
第12回：発達（5）：言語の発達（担当：山口雄介）			
第13回：発達（6）：社会性の発達（担当：山口雄介）			
第14回：発達（7）：集団の形成（担当：山口雄介）			
第15回：学習や発達の評価（担当：山口雄介）			

定期試験を実施する

テキスト

藤田哲也『絶対役立つ教育心理学（第2版）』ミネルヴァ書房、2021年

参考書・参考資料等

授業中に適宜資料を配布する。

学生に対する評価

定期試験（60%）、各授業終了時の小テストの回答状況および成績（40%）から評価する。

授業科目名： 特別支援教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大久保 圭子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中学校に在籍している児童の障害及び特別な教育的ニーズについての理解を深める。</li> <li>・ 特別支援学校・特別支援学級・通級による指導の教育課程を知る。</li> <li>・ 障害のある児童のアセスメントと指導方法について学ぶ。</li> <li>・ 個別の指導計画の作成及び活用方法を学ぶ。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <p>本講義では、障害のある又は特別な教育的ニーズのある幼児児童生徒への幼稚園や小中学校等での教育について基本的な知識を習得するため、幼児児童生徒の障害の種類とその特性、特別支援学校、特別支援学級、通級による指導の教育課程、通常の学級での指導・支援のあり方について説明するとともに、自立活動の指導、各教科等を合わせた指導等について解説し具体的な実践について紹介する。そして、障害児へのアセスメントと具体的な指導・支援の方法について説明を行い、幼稚園・小中学校等で行われている個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と個に応じた指導、校内体制の構築、保護者や関係機関との連携について実践例を通して解説し理解を深める。</p>			
<b>授業計画</b> <p>第1回：特別支援教育について（定義・法令・歴史）</p> <p>第2回：障害のある児童生徒及び障害はないが特別な教育的ニーズのある児童生徒の把握や支援、合理的配慮等について</p> <p>第3回：特別支援学校・特別支援学級の教育課程と通級による指導</p> <p>第4回：通常の学級での配慮・支援</p> <p>第5回：自立活動と各教科等を合わせた指導（遊びの指導、日常生活の指導、生活単元学習、作業学習）</p> <p>第6回：心身の発達と障害児へのアセスメント（意義、内容、方法）</p> <p>第7回：個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成と個に応じた指導について（実践例を通して）</p> <p>第8回：校内支援体制の構築（特別支援教育コーディネーターの役割と特別支援学校のセンターの機能の活用、関係機関や保護者との連携など）</p> <p>定期試験実施しない。</p>			
テキスト			

なし

参考書・参考資料等

文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚園・小学部・中学部）』、2018年

文部科学省『特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）』、2018年

その他適時配布する

学生に対する評価

授業内での小テスト20%、レポート80%で評価する。

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山原 智
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ これからの社会を生き抜く力を養うための授業を展開するために、教育課程の意義や編成について理解する。</li> <li>・ 教育の背景をふまえて、授業及びその他の指導計画を立てることができる。</li> <li>・ 背景としての社会や地域、及び学校の役割をふまえて、授業やカリキュラム・マネジメントの意義や重要性について理解する。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <p>この授業科目は、教職課程コアカリキュラムにおける「教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む)」に位置づけられている。</p> <p>社会、地域、学校の状況を踏まえて、授業を展開する上で理解すべき教育課程の役割、機能、意義、編成の方法、及び学校教育課程全体のマネジメントについて理解できる。</p>			
<b>授業計画</b> <p>第1回：オリエンテーション/教育課程の考え方（役割、機能）</p> <p>第2回：授業デザインの考え方、方法、教育評価</p> <p>第3回：教師に求められる姿勢</p> <p>第4回：教育法規と教育課程</p> <p>第5回：カリキュラム論の類型、授業デザイン</p> <p>第6回：カリキュラムと教育課程、カリキュラムデザイン、カリキュラム・マネジメントの意義</p> <p>第7回：教育課程の目的と指導技術</p> <p>第8回：学習指導要領と教育課程、キーコンピテンシー</p> <p>第9回：総合的な学習の時間、総合的な探究の時間</p> <p>第10回：諸外国のカリキュラム改革の動向</p> <p>第11回：学習指導理論と学習指導案の作成 1回目</p> <p>第12回：学習指導理論と学習指導案の作成 2回目</p> <p>第13回：グループ発表（授業デザイン）とその評価 1回目</p> <p>第14回：グループ発表（授業デザイン）とその評価 2回目</p> <p>第15回：まとめとふりかえり</p>			

定期試験は実施しない
テキスト なし
参考書・参考資料等 松尾知明『教育課程・方法論：コンピテンシーを育てる授業デザイン』学文社、2014年 今西孝蔵ほか『教職に関する基礎知識』八千代出版、2013年 その他、授業において紹介する
学生に対する評価 宿題：40%、ミニッツレポート・振り返り・課題シート：60%により評価する

授業科目名： 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 中園 大三郎 担当形態： 単独
科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動及び総合的な学習の時間の教育課程における位置・意義や目標・内容・指導法等についての知識を理解し、指導に生かすことができる。</li> <li>・特別活動及び総合的な学習の時間のねらいで類似性のある「主として人間としての望ましい生き方、学び方、態度、習慣を育成すること。」を理解することができる。また、双方の違いである固有の教育的意義・ねらい・内容等を理解し、指導に生かすことができる。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の目標は、生徒達に「生きる力」を育むことにあり、これからの社会が急激に変化し、予測困難な時代になっても、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら判断・行動し、それぞれに思い描く自己実現への願いが込められている。そのため、教科の枠や知識のみに偏らない、汎用的な学力の向上を図る全人教育の推進が求められている。その中心的な教育活動が特別活動と総合的な学習の時間である。</li> <li>・本講義の前半は、特別活動を取り上げ、自主的、実践的な集団活動を通して、生徒達が人間としての在り方生き方についての考えを深め自己実現を目指す教育について理解し、指導力を付ける。後半は、総合的な学習の時間の指導を取り上げ、「知識基盤社会」において生徒達が自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決できる資質・能力の育成に関わる理論を深め、指導力を付ける。</li> </ul>			
<b>授業計画</b> <p>第 1 回：生徒達の現状、特別活動の目標及び主な内容（授業オリエンテーション）</p> <p>第 2 回：特別活動の歴史の変遷や意義、各教科等との関連</p> <p>第 3 回：学級活動・ホームルーム活動の目標・内容・指導（話し合い活動、係活動、集会活動）</p> <p>第 4 回：学級活動・ホームルーム活動の学習指導案作成（話し合い活動）</p> <p>第 5 回：学級活動・ホームルーム活動（係活動、集会活動）、特別活動の他の内容との関連</p> <p>第 6 回：児童会活動・生徒会活動の目標・内容・指導</p> <p>第 7 回：学校行事の目標・内容・指導、特別活動と他の教育活動との関連</p> <p>第 8 回：家庭・地域・関係機関との連携、特別活動の評価、理解度確認</p> <p>第 9 回：総合的な学習の時間の歴史、意義、授業時数</p> <p>第 10 回：総合的な学習の時間の目標・内容、学習過程、育成する資質・能力</p> <p>第 11 回：総合的な学習の時間の単元計画、学習指導案の作成</p> <p>第 12 回：総合的な学習の時間における探究学習の指導ポイント、外部との連携</p> <p>第 13 回：総合的な学習の時間の実践事例 1、指導上の留意点、推進体制</p> <p>第 14 回：総合的な学習の時間の実践事例 2、評価の在り方</p> <p>第 15 回：総合的な学習の時間の指導のまとめ、理解度確認</p> <p>定期試験を実施する</p>			
テキスト（必ず用意すること。） 中園大三郎・松田修・中尾豊喜編著『小・中・高等学校 特別活動と総合的な学習・探究の理論と指導』第 2 版 学術研究出版、2023 年			

**参考書・参考資料等**

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』東山書房、2018年

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東山書房、2018年

**学生に対する評価**

定期試験60%、小テスト・課題提出40%により評価する。

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山原 智、杉野 竜美
			担当形態： オムニバス
科 目	道徳・総合的な学習の時間の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育・学習理論を理解し、それらを教育現場で利用できる。具体的には、学習指導案が作成できる。</li> <li>・教育の目的に適した（ITの活用を含む）学習指導ができる。具体的には、パワーポイントを用いた学習指導ができる。</li> <li>・教育と表裏一体の評価に関する知識を得て、利用できるようになる。具体的には、ポートフォリオ評価、ルーブリック評価を利用することができる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>この授業科目は、教職課程コアカリキュラムにおける「教育の方法及び技術」に位置づけられている。</p> <p>「人に教える」ことができることを目的とし、教室で教えるために必要な理論・方法・技術に関する知識を修得する。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション/教育方法論の概要と意義（担当：山原 智、杉野竜美）			
第2回：学校と教育方法の歴史 教育の歴史における教育方法（アテネとスパルタ、ソフィストとソクラテス等）（担当：山原 智）			
第3回：学校と教育方法の歴史 教育の歴史における教育方法（コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、コンドルセ等）（担当：山原 智）			
第4回：学校と教育方法の歴史 近代における学校（寺子屋から学校へ）（担当：山原 智）			
第5回：育成すべき資質能力と教員の資質能力（担当：山原 智）			
第6回：学習理論と授業デザイン（担当：山原 智）			
第7回：授業デザインと授業評価（担当：山原 智）			
第8回：アクティブラーニング 学習指導要領の関係からアクティブラーニングの概要を理解する（担当：山原 智）			
第9回：アクティブラーニング アクティブラーニングの考え方・進め方（担当：山原 智）			
第10回：授業実践について 学習指導案の役割および構造を知り作成する（担当：山原 智）			

第11回：視聴覚教材を用いた教授方法　メディアリテラシー、オンライン/PCを活用した授業（担当：山原 智）
第12回：視聴覚教材を用いた教授方法　オンライン/PCを活用した教材（担当：山原 智）
第13回：模擬授業とその評価　グループで取り組む模擬授業（担当：山原 智）
第14回：模擬授業とその評価　グループ発表（教育方法重視）とその評価（担当：山原 智）
第15回：まとめとふりかえり（担当：山原 智、杉野竜美）
定期試験は実施しない。
テキスト なし。
参考書・参考資料等 文部科学省 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編 東山書房、2018年 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 東山書房、2019年
学生に対する評価 宿題60%、振り返り・課題シート40%

授業科目名： ICT教育の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 山原 智、杉野 竜美
			担当形態： オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> (1) 教育現場におけるICT(情報通信技術)活用の意義や理論について理解する (2) ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解する (3) 情報活用能力を育成する意義および育成方法を身につける			
<b>授業の概要</b> 教育場面におけるICT(情報通信技術)の活用について、概要とその意義、今後の方向性を理解する。授業や学習指導における児童生徒および教員によるICT活用、校務における活用や教育データの活用を取り上げる。合わせて、今後の社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力および情報モラルについて、その構成要素および具体的な指導法を理解する。 本科目は、視聴覚教材を使用しながら講義形式を進めるが、実際にICT機器を活用することにより体験的に学修する機会を設定する。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション・現代社会におけるICTの役割(担当：杉野竜美) 第2回：ICT活用指導力の実際とデジタルコンテンツの活用(担当：山原 智) 第3回：個別最適な学びと対話的な学びを深めるICTの活用と遠隔授業(担当：山原 智) 第4回：特別支援教育におけるICTの活用(担当：山原 智) 第5回：児童生徒のICT活用の実際(担当：山原 智) 第6回：校務の情報化と教育データの活用(担当：山原 智) 第7回：情報モラルと情報セキュリティ(担当：山原 智) 第8回：情報活用能力のカリキュラム・マネジメント(担当：杉野竜美) 定期試験を実施する			
<b>テキスト</b> 稲垣忠・佐藤和紀(編著)『ICT活用の理論と実践 DX時代の教師をめざして』北大路書房			
<b>参考書・参考資料等</b> 適宜資料を配布する。			
<b>学生に対する評価</b> 定期試験(60%)、授業内で課す課題(40%)から評価する。			

授業科目名： 生徒・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松田 修
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 生徒指導では、その基本的な事項や問題を把握し、生徒指導の在り方や豊かな人間形成の実現など生徒指導の理論や方法について理解し、指導に必要な知識及び技能や資質・能力を身に付ける。</p> <p>2. 進路指導では、その理論、キャリア教育の基本的事項について理解を深めることができる。また、教科指導や特別活動等と関連させ、キャリア教育を組織的、横断的に進める実際的な計画を立案することができる。さらには、自己のキャリア発達への意識を深めるとともに、キャリア教育の諸課題や生徒たちのキャリア形成上の問題に関心を持ち、生徒に寄り添い積極的に解決を図ることができる。</p>			
授業の概要			
<p>1. 本科目では、学校教育の目的である「生きる力」の育成に直接かかわる生徒指導及び進路指導の理論や指導の在り方を習得する。</p> <p>2. 生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動である。授業では、生徒指導の意義・内容や指導等についての知識及び技能について習得する。</p> <p>3. 進路指導は、生徒自ら、将来の進路の選択、計画を行い、就職または進学して、さらにその後の生活によりよく適応し、進歩する能力を育成する教育活動である。授業では、進路指導の目的、理論、指導方法、推進体制等、キャリア教育の基本的事項について学ぶ。</p> <p>4. 生徒指導及び進路指導の指導担当は、学校での実務や研究の経験を有する教員であり、その経験を活用し、受講生が自ら主体的に参画できる指導を実施する。受講生は、生徒指導及び進路指導の意義・内容、指導法等の実際を体験的に学修する。</p>			
授業計画			
第1回：授業概要、生徒指導の定義と目的、生徒指導の実践上の視点			
第2回：生徒指導の構造と学校現場における校内組織と仕事内容			
第3回：生徒理解の基本・方法・対象、資料収集・解釈			
第4回：生徒指導と各教科・道徳教育・特別活動等の関連			
第5回：教育相談の在り方			

第6回：「体罰・懲戒」の定義、指導の在り方、家庭・地域・関係機関との連携、  
 第7回：問題行動の指導・対応（いじめ、不登校等）  
 第8回：問題行動の指導・対応（アサーションを通して）  
 第9回：進路指導の歴史的背景と意義及、学校における進路指導上の課題  
 第10回：進路指導を支える基礎理論  
 第11回：キャリア教育の基本的概念と指導法  
 第12回：啓発的体験活動の意義と実際  
 第13回：啓発的体験活動の計画、演習、評価  
 第14回：フリーター・ニート問題とキャリア教育  
 第15回：学校における進路指導の組織、演習（組織的、横断的な進路指導計画）  
 定期試験を実施する。

#### テキスト

文部科学省『生徒指導提要』教育図書 令和4年12月

文部科学省『中学校キャリア教育の手引き』 2023年10月

#### 参考書・参考資料等

自作プリント教材、自作プレゼンテーション

#### 学生に対する評価

・定期試験 50% ・毎回の授業振り返りシート 30% ・授業内課題 20% により評価する。

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 仲 淳
			担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導と教育相談との違いを踏まえて、その円滑な協働について説明することができる。</li> <li>・教育相談におけるカウンセリングの考え方や技法について理解できる。</li> <li>・思春期・青年期の心理的特徴や保護者の視点を理解し、学校現場で起こりうる事態をイメージして、多様な他者の生き方を受け止めて支援する力を身につける。</li> </ul>			
<b>授業の概要</b> <p>学校現場ではいじめ、校内暴力、障害、LGBTなどの問題から一時的な不適応や心身の不調をきたし不登校状態になる生徒も多い。この解決には本人や保護者への支援、地域や関係機関の連携が重要になる。授業では教育相談の意義や理論、方法、展開について学ぶ。</p>			
<b>授業計画</b> <p>第1回：教育相談についての学び 生徒指導と教育相談の相違について  第2回：学校教育相談とは  第3回：カウンセリングの理解と実際  第4回：児童・生徒の問題の理解と対応  第5回：不登校の理解と対応  第6回：いじめの理解と対応  第7回：学級崩壊の理解と対応  第8回：反社会的問題行動の理解と対応  第9回：開発的カウンセリング  第10回：保護者に対する援助  第11回：校内での協力体制  第12回：教員のメンタル・ヘルス  第13回：他機関との連携  第14回：LGBTへの理解（DVD鑑賞）  第15回：学習到達度の確認・解説  定期試験は実施しない</p>			

テキスト

なし。

参考書・参考資料等

森慶輔・宮下敏恵（編著） 調べる・学ぶ・考える 教育相談テキストブック：学校で出会う問題とその対応 2021年 金子書房

学生に対する評価

最終レポート課題 60%、毎回のミニレポート提出 40%（解答を解説）

## シラバス：教職実践演習

シラバス：	単位数：2単位	担当教員名：
教職実践演習（中・高）		野本 玲子
科 目	教育実践に関する科目	
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握( 1 )
		学校現場の意見聴取( 2 )
受講者数	50人	
	授業内容にあわせて適宜25名程度の2グループに分けて実施する。	
教員の連携・協力体制	<p>教科に関する科目担当教員と教職に関する科目担当教員で、履修カルテを基にして今までの学修内容や理解度を共有した上で授業内容について協議し、共同で授業にあたる。また、教育委員会等と連携を図り、学外の教職経験者からのアドバイスも受け、授業を展開する。</p>	
授業のテーマ及び到達目標	<p>1. 使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項</p> <p>教育に対する使命感や情熱を持ち、生徒に対して常に誠実に公平に接し、生徒に寄り添い生徒から学び、共に成長しようとする意識を持って指導にあたらうとする志を持っている。</p> <p>高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすために、努力する姿勢を持っている。</p> <p>子どもの成長や安全、健康を第一に考え、適切に行動するために、努力する姿勢を持っている。</p> <p>2. 社会性や対人関係能力に関する事項</p> <p>教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとるため、相応しい基本的な生活態度が身についている。</p> <p>組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができるようになるため、円滑に活発にグループワーク等に取り組むことができる。</p> <p>保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができるようになるため、事例研究におけるロールプレイなどで自分のこととして深く考え、協力して解決に取り組むことができる。</p> <p>3. 生徒理解や学級経営などに関する事項</p> <p>生徒に対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うために傾聴することができる。</p> <p>生徒の発達や心身の状況に応じて抱える課題を理解し、適切な指導を行うために学ぶことができる。</p> <p>生徒との間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うために努力することができる。</p> <p>4. 教科内容の指導力に関する事項</p> <p>教科書の内容を理解しているなど、学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能など）を身に付けるため、十分に教材研究教具等の準備をし、効果的な学習指導案、授業計画を作成することができる。</p> <p>板書、話し方、表情など授業を行う上での基本的な表現力を身に付けている。</p>	

<p>生徒の反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態などを工夫することができる。</p>
<p><b>授業の概要</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この科目は、教員になる上で、自分にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることを目的としている。4年間で身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合・形成されたかについて最終的に確認し、教職生活の円滑なスタートを支援する内容である。</li> <li>・教員として求められる基礎的事項として、到達目標にあげた4事項について、学生自身が自己の状況を確認し、資質能力を高めるための活動を含む。</li> </ul>
<p><b>授業計画</b></p> <p>第1回：全体ガイダンス、教職カルテを用いた学修の振り返り</p> <p>第2回：先輩からのアドバイスをもとに教育実習で明らかになった課題のICT活用、AARサイクル、ダブルループ思考の解決・エージェンシーの再認識と教職に対する使命感</p> <p>第3回：生徒理解や学級経営等について、アーカイブなどのICTを活用した事例研究</p> <p>第4回：いじめ、不登校等の学級経営上の課題についてロールプレイ、グループ討議</p> <p>第5回：社会性、対人関係、生徒理解、保護者対応についてロールプレイ、グループ討議</p> <p>第6回：地域、保護者や学校関連機関・施設との連携について事例研究、グループ討論</p> <p>第7回：特別活動、部活動における体育教師としての役割等についての事例研究、グループ討議</p> <p>第8回：体罰、いじめ等の今日的な課題について事例研究、グループ討議</p> <p>第9回：研究模擬授業（保健体育） 教育実習からの授業改善、集大成</p> <p>第10回：模擬授業（保健体育）の授業改善研究 グループ討議、全体討議</p> <p>第11回：研究模擬授業（道徳） 教育実習からの授業改善、集大成</p> <p>第12回：模擬授業（道徳）の授業改善研究 グループ討議、全体討議</p> <p>第13回：プレゼン発表</p> <p>第14回：ICTを活用し、プレゼン発表後の研究協議（グループ討論、全体討議）</p> <p>第15回：全体のリフレクション 教職課程の学びの自己評価メタ認知</p>
<p><b>テキスト</b></p> <p>土井進『中等教育実習「事前・事後指導」』ジダイ社、2017</p>
<p><b>参考書・参考資料等</b></p>
<p><b>履修カルテ</b></p>
<p><b>学生に対する評価</b></p> <p>【授業内の課題・小レポート（5点×15）45%】＋【レポート課題及び実践研究物作成課題55点55%】で評価する。</p>

- 1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「 」と記載すること。
- 2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「 」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。